

小児がん拠点病院 現況報告書

令和元年9月1日時点について記載

✓チェック欄
に未入力なし

病院名	国立研究開発法人国立成育医療研究センター													
よみがな	こくりつけんきゅうかいほつほうじん こくりつせいいくいりょうけんきゅうせんたー										✓			
郵便番号	〒	157-8535									✓			
住所	東京都	世田谷区大蔵2-10-1									✓			
よみがな	せたがやくおおくら2-10-1										✓			
電話(代表)	03-3416-0181										✓			
FAX(代表)	03-3416-2222													
e-mail(代表)	-													
HPアドレス	https://www.ncchd.go.jp/													
診療科	開設診療科数	28									✓			
	診療科名(具体的に記載)	内科、精神科、神経科、呼吸器科、消化器科、循環器科、アレルギー科、リウマチ科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、歯科、心療内科、小児外科、矯正歯科、小児歯科、病理診断科、麻酔科										✓		
	外来診療受付時間	曜日	月～金	時間	8	時	30	分	～	17	時	00	分	✓
		曜日		時間		時	00	分	～		時	00	分	
		曜日		時間		時	00	分	～		時	00	分	
	外来診療時間	曜日	月～金	時間	8	時	30	分	～	17	時	00	分	✓
		曜日		時間		時	00	分	～		時	00	分	
		曜日		時間		時	00	分	～		時	00	分	
	休診日	土日、祝祭日、年末年始 ※小児救急外来は、24時間年中無休										✓		
	初診時の予約	すべての診療科で必要					(すべての診療科で必要／一部の診療科で必要／不要)					✓		
	初診時の紹介状の要否	すべての診療科で必要					(すべての診療科で必要／一部の診療科で必要／不要)					✓		
病床数	総病床数	490	床								✓			

診療実績 (平成30年1月1日～12月31日)

年間新入院患者数 ※1	11,765	人	✓
年間新入院小児がん患者数 ※1	98	人	✓
年間新入院患者数に占める小児がん患者の割合	0.8	%	
小児がん入院患者数 ※2	1,034	人	✓
小児がん入院患者在院延べ日数 ※2	17,972	日	✓
小児がん入院患者における再発患者数 ※3	210	人	✓
外来小児がん患者数 ※4	4,596	人	✓
緩和ケアチームが新規で診療を実施した小児がん患者数 ※5	77	人	✓
セカンドオピニオンの対応を行った小児がん患者数 ※5	69	人	✓
他施設から紹介され受け入れた小児がん患者数 ※5	130	人	✓
小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	93	機関	✓
小児がん患者の他施設への紹介患者数 ※6	294	人	✓
小児がん患者を紹介した医療機関数	162	機関	✓

※1 18歳以下を対象とする。年間新入院患者数は総数を計上する。

※2 入院患者数は延べ数で計上する。なお、同一患者が当月中に2回入院した場合には2件とし、入院した患者がその日のうちに退院あるいは死亡した場合も計上する。

※3 18歳以下を対象とする。初回治療後に再発もしくは病態が増悪した入院患者数を延べ数で計上する。初回治療入院中に再発もしくは病態が増悪した場合も計上する。

※4 診断時18歳以下の診断例とする。当年の診療録の作成または記載の追加を行った、新来もしくは再来小児がん患者の延べ数を記入する。同一患者が2つ以上の診療科を受診し、それぞれの診療科で診療録の作成または記載の追加を行った場合、それぞれの外来患者として計上する。

※5 診断時18歳以下の診断例とし、総数を計上する。

※6 診断時に18歳以下であった患者の総数を計上するが、紹介時には18歳を超えていても構わない。

がんに関する専門外来の名称

小児がんセンター 血液腫瘍科、脳神経腫瘍科、固形腫瘍科、移植・細胞治療科

✓

届出された先進医療の状況

先進医療への対応状況(小児がんに関するもの)

別紙1

職員数

総数(事務職員を含む)

1,711 人

人数 うち常勤(※)

医師

371 316

歯科医師

5 4

薬剤師

47 41

※常勤とは当該医療機関で定めている1週間の就業時間すべてを勤務している者をいい、正規・非正規は問わないものとする。ただし、当該医療機関で定めている就業時間が32時間に満たない場合は、常勤とはみなさない。

保健師
 看護師
 准看護師
 理学療法士
 作業療法士
 視能訓練士
 言語聴覚士
 義肢装具士
 診療放射線技師
 臨床検査技師
 衛生検査技師
 臨床工学技士
 管理栄養士
 栄養士
 社会福祉士
 精神保健福祉士
 介護福祉士
 保育士

0	0
664	647
1	1
7	7
4	4
4	3
4	3
0	0
19	19
29	25
1	0
8	8
7	5
0	0
6	5
0	0
1	1
10	10

みなさない。

✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓

人数 うち常勤(※)

日本小児血液・がん学会 専門医
 日本小児血液・がん学会 指導医
 日本小児血液・がん学会 暫定指導医
 日本小児血液・がん学会 認定外科医
 日本小児外科学会 専門医
 日本小児外科学会 指導医
 日本小児科学会小児科 専門医
 日本小児神経学会 小児神経専門医
 日本脳神経外科学会 脳神経外科専門
 日本病理学会 病理専門医
 日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医
 がん治療認定医機構 がん治療認定医
 がん治療認定医機構 暫定教育医
 日本放射線腫瘍学会 認定医
 日本緩和医療学会 緩和医療専門医
 日本緩和医療学会 緩和医療認定医
 日本看護協会 がん看護専門看護師
 日本看護協会 小児看護専門看護師

7	7
5	5
3	3
3	3
7	7
5	5
94	94
4	4
4	4
5	3
0	0
10	10
1	1
2	2
1	1
0	0
0	0
3	3

※常勤とは当該医療機関で定めている1週間の就業時間すべてを勤務している者をいい、正規・非正規は問わないものとする。ただし、当該医療機関で定めている就業時間が32時間に満たない場合は、常勤とはみなさない。

✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓

病院名: 国立研究開発法人国立成育医療研究センター

「A」項目の充足状況・・・ 76 / 76 100.0%

1 診療体制		A : 必須 B : 望ましい - : 参考	はい: 記載内容を満たしている いいえ: 記載内容を満たしていない		
(1) 診療機能					
① 集学的治療の提供体制および標準的治療等の提供					
	小児がんについて、手術療法、放射線療法および薬物療法を効果的に組み合わせた集学的治療および緩和ケアを提供する体制を有するとともに、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療（以下「標準的治療」という。）等小児がん患者の状態に応じた適切な治療を提供している。 専門とするがんについて別紙2に記載すること。	A	はい	(はい/いいえ)	8 <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
			別紙2		9 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	小児がん患者の病態に応じたより適切ながん医療を提供できるよう、カンサーボード（手術療法、放射線療法および薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師その他の専門を異にする医療従事者等によるがん患者の症状、状態および治療方針等を意見交換・共有・検討・確認等するためのカンファレンスをいう。以下同じ。）を設置し、定期的開催している。また、必要に応じて、歯科医師や薬剤師、看護師、管理栄養士、歯科衛生士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士（特に医療ソーシャルワーカー）、公認心理師等の専門的多職種の参加を求めており、カンサーボードで検討した内容については、記録し、関係者間で共有している。 カンサーボードの開催回数（平成30年1月1日～12月31日）	A	はい	(はい/いいえ)	10 <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
		-	57	回	11 <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	小児がん連携病院と協力し、小児がん患者に対して、移行期医療や成人後の晩期合併症対応等も含めた長期フォローアップ体制を構築している。 長期フォローアップ外来（小児がん経験者の健康管理、晩期合併症の予防、疾病の早期発見・早期治療のための外来）を開設している。 長期にわたり診療するための具体的な診療体制について別紙3に記載すること。	A	はい	(はい/いいえ)	12 <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
		-	はい	(はい/いいえ)	13 <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
			別紙3		14 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	AYA世代にあるがん患者について、がん診療連携拠点病院等への紹介も含めた適切な医療を提供できる体制を構築している。 AYA世代への診療提供体制（自施設・他施設の成人診療科との連携状況）について別紙4に記載すること。	A	はい	(はい/いいえ)	15 <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
			別紙4		16 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	急変時等の緊急時に小児がん患者が入院できる体制を確保している。	A	はい	(はい/いいえ)	17 <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	治療に伴う生殖機能への影響など、がん治療開始前に適切な情報提供を行うとともに、患者等の希望も踏まえ、生殖機能の温存の支援を行う体制を構築している。 生殖機能の温存の支援を行った患者数やその体制について別紙5に記載すること。	B	はい	(はい/いいえ)	18 <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
			別紙5		19 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	保険適応外の免疫療法等の先進的な治療を実施する場合は、科学的知見を集積する観点から、原則として治験、先進医療を含めた臨床研究の枠組みで行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	20 <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
② 薬物療法の提供体制					
	薬物療法のレジメン（治療内容をいう。）を審査し、組織的に管理する委員会を設置している。なお、当該委員会は、必要に応じて、カンサーボードと連携協力すること。 薬物療法のレジメンを審査し、組織的に管理する委員会の組織・体制について別紙6に記載すること。	A	はい	(はい/いいえ)	22 <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
			別紙6		23 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
③ 緩和ケアの提供体制					
	小児がん拠点病院の指定要件で規定する小児の緩和ケアチーム（以下「緩和ケアチーム」という）を整備し、当該緩和ケアチームを組織上明確に位置付けるとともに、小児がん患者に対し適切な緩和ケアを提供している。	A	はい	(はい/いいえ)	25 <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

チェック欄に未入力なし Aの充足状況

	緩和ケアチームへの患者紹介の手順について別紙8に記載すること。		別紙8		27		
イ	外来において専門的な小児の緩和ケアを提供できる体制を整備している。	B	はい	(はい/いいえ)	28	<input checked="" type="checkbox"/>	
	緩和ケア外来について別紙9に記載すること。		別紙9		29		
ウ	緩和ケアチーム並びに必要に応じて主治医および看護師等が参加する症状緩和に関するカンファレンスを定期的に開催している。	A	はい	(はい/いいえ)	30	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	緩和ケアチームによるカンファレンスを開催した回数(平成30年1月1日～12月31日)	-	17	回	31	<input checked="" type="checkbox"/>	
エ	院内の見やすい場所に緩和ケアチームによる診察が受けられる旨の掲示をするなど、小児がん患者およびその家族等に対し必要な情報提供を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	32	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	情報提供の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	内掲示、ホームページ等に掲		33		
オ	小児がん連携病院やかかりつけ医等の協力・連携を得て、主治医および看護師が緩和ケアチームと共に、退院後の居宅における緩和ケアに関する療養上必要な説明および指導を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	34	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
カ	小児の緩和ケアに関する要請および相談に関する受付窓口を設けるなど、小児がん連携病院や地域の医療機関および在宅療養支援診療所等との連携協力体制を整備している。	B	はい	(はい/いいえ)	35	<input checked="" type="checkbox"/>	
	緩和ケア病棟について別紙10に記載すること。		別紙10		36		
④ 病病連携・病診連携の協力体制					37		
ア	小児がん連携病院や地域の医療機関から紹介された小児がん患者の受入れを行っている。また、小児がん患者の状態に応じ、小児がん連携病院や地域の医療機関等へ小児がん患者の紹介を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	38	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	地域の医療機関との連携協力体制について別紙11に記載すること。		別紙11		39		
イ	小児がんの病理診断または画像診断に関する依頼や手術療法、放射線療法または薬物療法に関する相談など、小児がん連携病院や地域の医療機関等の医師と相互に診断および治療に関する連携協力体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)	40	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ウ	患者の状況等に応じて、地域連携クリティカルパス(拠点病院と小児がん連携病院や地域の医療機関等が作成する診療役割分担表、共同診療計画表および患者用診療計画表から構成される小児がん患者に対する診療の全体像を体系化した表をいう。以下同じ。)を整備している。	B	いいえ	(はい/いいえ)	41	<input checked="" type="checkbox"/>	
エ	ウに規定する地域連携クリティカルパスを活用するなど、小児がん連携病院や地域の医療機関等と協力し、必要に応じて、退院時に当該小児がん患者に関する共同の診療計画の作成等を行っている。	B	はい	(はい/いいえ)	42	<input checked="" type="checkbox"/>	
⑤ セカンドオピニオンの提示体制					43		
	小児がんについて、手術療法、放射線療法または薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師によるセカンドオピニオン(診断および治療法について、主治医以外の第三者の医師が提示する医療上の意見をいう。以下同じ。)を提示する体制を有している。また、小児がん連携病院がセカンドオピニオンを提示する体制を構築できるよう適切な指導を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	44	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	セカンドオピニオンの提示体制、問い合わせ窓口について別紙12に記載すること。		別紙12		45		
⑥ その他					46		
	小児がん患者の親へのケアを実施している。	-	はい	(はい/いいえ)	47	<input checked="" type="checkbox"/>	
(2) 診療従事者					48		
用語の定義: 専任:当該診療の実施担当者で、その他の診療を兼任していても差し支えないが、就業時間の少なくとも5割以上、当該診療に従事しているもの。 専従:就業時間の少なくとも8割以上、当該診療に専ら従事しているもの。 ※専任の人数には、専従も含めて記載すること。					49		
① 専門的な知識および技能を有する医師の配置					50		

ア 放射線診断に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。

A 人 51

	放射線診断に携わる医師のうち常勤の人数	-	7	人	52	✓	
イ	薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	-	15	人	53	✓	
	薬物療法に携わる医師のうち専任の人数	A	15	人 1人以上	54	✓	○
	薬物療法に携わる医師のうち専任かつ常勤の人数	B	7	人	55	✓	
	薬物療法に携わる医師のうち専従の人数	B	15	人	56	✓	
	薬物療法に携わる医師のうち専従かつ常勤の人数	-	6	人	57	✓	
ウ	緩和ケアチームの、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	A	2	人 1人以上	58	✓	○
	緩和ケアチームの、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数のうち常勤の人数	B	2	人	59	✓	
	緩和ケアチームの、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	A	1	人 1人以上	60	✓	○
	緩和ケアチームの、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数のうち常勤の人数	B	1	人	61	✓	
	緩和ケアチームの身体症状担当医および精神症状担当医の人数。	-	3	人	62	✓	
	うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	3	人	63	✓	
	受講率	-	100.0	%	64		
	うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	3	人	65	✓	
	受講率	-	100.0	%	66		
	小児がん診療において、小児がん患者の主治医や担当医となる者の人数。	-	16	人	67	✓	
	うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	4	人	68	✓	
	受講率	-	25.0	%	69		
	うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	12	人	70	✓	
	受講率	-	75.0	%	71		
	施設に所属する医師(非常勤務医師も1人としてカウント)のうち、小児がん患者の主治医や担当医となることは想定されないが、主治医等から診察依頼を受けた場合や当直業務などで小児がん患者に対する診療を行うことがある者の人数。	-	28	人	72	✓	
	うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	1	人	73	✓	
	受講率	-	3.6	%	74		
	うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	6	人	75	✓	
	受講率	-	21.4	%	76		
	施設に所属する医師(非常勤務医師も1人としてカウント)のうち、病理診断医や放射線診断医など、小児がん患者との日常的な対面は想定されない者の人数。	-	20	人	77	✓	
	うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	0	人	78	✓	
	受講率	-	0.0	%	79		
	うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	0	人	80	✓	
	受講率	-	0.0	%	81		
	施設に所属する初期臨床研修2年目から初期臨床研修修了後3年目までのすべての医師の人数。	-	42	人	82	✓	
	うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	10	人	83	✓	
	受講率	-	23.8	%	84		
	うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	0	人	85	✓	
	受講率	-	0.0	%	86		
	病院長はPEACE(成人の緩和ケア研修会)を修了している。	-	いいえ	(はい/いいえ)	87	✓	
	病院長はCLIC(小児の緩和ケア研修会)を修了している。	-	いいえ	(はい/いいえ)	88	✓	

エ 病理診断に携わる医師の人数。

- 6 人 89

	病理診断に携わる医師のうち専従の人数	A	5	人	1人以上	90	✓	○
	病理診断に携わる医師のうち専従かつ常勤の人数	B	3	人		91	✓	
② 専門的な知識および技能を有するコメディカルスタッフの配置								
	ア 放射線療法に携わる診療放射線技師の人数。	A	4	人	1人以上	93	✓	○
	放射線療法に携わる診療放射線技師のうち常勤の人数	-	4	人		94	✓	
	放射線療法における機器の精度管理、照射計画の検証、照射計画補助作業等に携わる技術者等の人数。	A	4	人	1人以上	95	✓	○
	放射線療法における機器の精度管理、照射計画の検証、照射計画補助作業等に携わる技術者等のうち常勤の人数	-	4	人		96	✓	
	イ 薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する薬剤師の人数。	-	4	人		97	✓	
	薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する薬剤師のうち常勤の人数	A	4	人	1人以上	98	✓	○
	ウ 緩和ケアチームの、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する看護師の人数。	-	1	人		99	✓	
	緩和ケアチームの、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する看護師の常勤の人数	A	1	人	1人以上	100	✓	○
	緩和ケアチームに協力する薬剤師の人数	B	1	人		101	✓	
	緩和ケアチームに協力する公認心理師の人数	B	1	人		102	✓	
	エ 細胞診断に関する業務に携わる者の人数。	B	4	人		103	✓	
	オ 小児看護やがん看護に関する専門的な知識および技能を有する専門看護師または認定看護師の人数。	B	28	人		104	✓	
	うち小児がん看護に関する知識や技能を習得している者の人数	B	11	人		105	✓	
	小児科領域に関する専門的な知識を有する公認心理師又は臨床心理士、社会福祉士(特に医療ソーシャルワーカー)、医療環境にある子どもや家族に心理社会的支援を提供する専門家であるチャイルド・ライフ・スペシャリスト等のような、療養を支援する担当者の人数。	B	25	人		106	✓	
	小児科領域に関する専門的な知識を有する公認心理士又は臨床心理士の人数	-	16	人		107	✓	
	小児科領域に関する専門的な知識を有する社会福祉士の人数	-	6	人		108	✓	
	医療環境にある子どもや家族に心理社会的支援を提供する専門家であるチャイルド・ライフ・スペシャリスト等の人数	-	3	人		109	✓	
③ その他								
	ア 小児がん患者の状態に応じたより適切ながん医療を提供できるよう、各診療科の医師における情報交換・連携を恒常的に推進する観点から、各診療科が参加する話し合いの場等を設置している。	B	はい	(はい/いいえ)		111	✓	
	拠点病院の長は、当該拠点病院において小児がん診療に携わる専門的な知識および技能を有する医師の専門性および活動実績等を定期的に評価し、当該医師がその専門性を十分に発揮できる体制を整備している。なお、当該評価に当たっては、手術療法・放射線療法・薬物療法の治療件数(放射線療法・薬物療法については、入院・外来ごとに評価することが望ましい。)、紹介されたがん患者数その他診療連携の実績、論文の発表実績、研修会・日常診療等を通じた指導実績、研修会・学会等への参加実績等を参考とすること。	A	はい	(はい/いいえ)		112	✓	○
	学会・教育・研修活動のための予算が計上されている。	-	はい	(はい/いいえ)		113	✓	
	論文発表、学会発表等を病院業績集等で報告している。	-	はい	(はい/いいえ)		114	✓	
(3) 医療施設								
① 専門的ながん医療を提供するための治療機器及び治療室等の設置								
	ア 放射線療法に関する機器を設置している。ただし、当該機器は、リニアックなど、体外照射を行うための機器であること。	A	はい	(はい/いいえ)		117	✓	○
	イ 集中治療室を設置している。	A	はい	(はい/いいえ)		118	✓	○
	集中治療室を設置している場合、一般向けの特集中治療室(ICU)の数	-	0	床		119	✓	
	集中治療室を設置している場合、小児専門の特集中治療室(PICU)の数	-	20	床		120	✓	

ウ 小児がん患者およびその家族が心の悩みや体験等を語り合うための場所およびその機会を設けている。	A	はい	(はい/いいえ)	121	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
小児がん患者およびその家族が語り合うための場の設定状況について別紙13に記載すること。		別紙13		122		

	小児がん患者およびその家族が語り合うための場の一覧を別紙14に記載すること。		別紙14	123		
	小児がん患者およびその家族を対象とした小児がんの医療・支援に関する勉強会等を開催した回数(平成30年1月1日～12月31日)	-	1回	124	<input checked="" type="checkbox"/>	
② 敷地内禁煙等						
	敷地内禁煙の実施等のたばこ対策に積極的に取り組んでいる。	A	はい (はい/いいえ)	126	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	敷地内は全面禁煙である。	-	はい (はい/いいえ)	127	<input checked="" type="checkbox"/>	
(4) 診療実績						
	① 小児がんについて年間(平成30年1月1日～12月31日)新規症例数が30例以上である(18歳以下の初回治療例を対象とする)。	A	はい (はい/いいえ)	129	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	② 固形腫瘍について年間(平成30年1月1日～12月31日)新規症例数が10例程度以上である(18歳以下の初回治療例を対象とする)。	A	はい (はい/いいえ)	130	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	③ 造血器腫瘍について年間(平成30年1月1日～12月31日)新規症例数が10例程度以上である(18歳以下の初回治療例を対象とする)。	A	はい (はい/いいえ)	131	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	診療実績等について別紙2および別紙15に記載すること。		別紙2・別紙15	132		
(5) その他						
	① 小児がん医療について、外部機関による技術能力についての施設認定(以下「第三者認定」という。)を受けた医療施設である。	A	はい (はい/いいえ)	134	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	特定非営利活動法人日本小児血液・がん学会が認定する「日本小児血液・がん専門医研修施設」である。	-	はい (はい/いいえ)	135	<input checked="" type="checkbox"/>	
	特定非営利活動法人日本小児外科学会が認定する「認定施設」である。	-	はい (はい/いいえ)	136	<input checked="" type="checkbox"/>	
	② 小児がんに係る骨髄・さい帯血等の移植医療について、第三者認定を受けた医療施設である。	A	はい (はい/いいえ)	137	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	公益財団法人骨髄移植推進財団の移植認定病院である。	-	はい (はい/いいえ)	138	<input checked="" type="checkbox"/>	
	日本さい帯血バンクネットワークの移植医療機関の登録施設である。	-	はい (はい/いいえ)	139	<input checked="" type="checkbox"/>	
	③ 一般社団法人小児血液・がん学会が主催する「小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会」を受講した医師及び看護師等医療関係者を配置または配置を予定している。	A	はい (はい/いいえ)	140	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	上記研修会を受講した医師及び看護師等医療関係者を配置している。	-	はい (はい/いいえ)	141	<input checked="" type="checkbox"/>	
	配置している上記研修会を受講した医師の人数	A	3人	142	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	配置している上記研修会を受講した医師以外の医療関係者の人数	-	7人	143	<input checked="" type="checkbox"/>	
	(配置していない場合)令和元年度中に講習を受講する予定である。	-	はい (はい/いいえ)	144	<input checked="" type="checkbox"/>	
2 研修の実施体制						
	小児がん連携病院や地域の医療機関等の多職種の医療従事者も参加する小児がんの診療、相談支援、がん登録及び臨床試験等に関する研修会等を毎年定期的に開催している。	A	はい (はい/いいえ)	146	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	小児がんに関する研修等の回数および研修プログラムの状況について別紙16に記載すること。		別紙16	147		
3 情報の収集提供体制						
(1) 相談支援センター						
	小児がん拠点病院の指定要件で規定する相談支援を行う機能を有する部門(以下「相談支援センター」という。なお、相談支援センター以外の名称を用いても差し支えないが、その場合には、がん医療に関する相談支援を行うことが分かる名称を用いることが望ましい。)を設置し、院内の見やすい場所に相談支援センターによる相談支援を受けられる旨の掲示をするなど、相談支援センターについて積極的に広報している。なお、小児がん患者及びAYA世代にあるがん患者に対しては、小児・AYA世代のがんに関する一般的な情報提供、療育・発達への支援等に加えて、ライフステージに応じた長期的な視点から、他の医療機関や行政機関、学校等と連携し、就学・就労・生殖医療等への相談対応や患者活動への支援等の幅広い相談支援が必要となることに十分に留意し、患者のみならず、患者のきょうだいを含めその家族に対する支援も行っている。	A	はい (はい/いいえ)	150	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

広報の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	パンフレット・小児がん相談		151		
相談支援センターの体制について別紙17に記載すること。		別紙17		152		
相談支援センターの状況について別紙18に記載すること。		別紙18		153		
相談支援センターの問い合わせ窓口について別紙19に記載すること。		別紙19		154		
① 「小児がん中央機関による研修について」(平成27年3月31日付け厚生労働省健康局がん対策・健康増進課事務連絡)に定める小児がん中央機関が実施する所定の研修を修了した、小児がん患者及びその家族等の抱える問題に対応できる専任の相談支援に携わる者を1人以上配置している。	A	はい	(はい/いいえ)	155	✓	○
② 患者やその家族に対し、必要に応じて院内の医療従事者が対応できるように、①に規定する者と医療従事者が協働できる体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)	156	✓	○
③ 院内及び地域の医療従事者の協力を得て、院内外の小児がん患者・AYA世代にある患者及びその家族並びに地域の住民及び医療機関等からの相談等に対応する体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)	157	✓	○
相談支援に関し十分な経験を有する小児がん患者団体等との連携協力体制の構築に積極的に取り組んでいる。	B	はい	(はい/いいえ)	158	✓	
小児がん患者団体等との連携について別紙20に記載すること。		別紙20		159		
相談支援センターにおいて、以下の業務を行っている。(相談件数については、別添の留意事項に従って、数えること。なお、1回の相談で複数の内容について相談された場合は、それぞれの項目に計上して良い。)				160		
ア 小児がんの病態、標準的治療法等小児がん診療等に関する一般的な情報の提供をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	161	✓	○
アの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	2	件	162	✓	
イ 領域別の小児がん診療機能、診療実績および医療従事者の専門とする分野・経歴など、小児がん連携病院等および医療従事者に関する情報の収集、提供をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	163	✓	○
イの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	14	件	164	✓	
ウ セカンドオピニオンの提示が可能な医師の紹介をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	165	✓	○
ウの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	0	件	166	✓	
エ 小児がん患者の発育及び療養上の相談に対応し支援をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	167	✓	○
エの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	288	件	168	✓	
エのうち、アピアランスに関する相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	8	件	169	✓	
オ 小児がん患者の教育上の相談に対応し支援をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	170	✓	○
オの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	65	件	171	✓	
カ 小児がん連携病院等および医療従事者等における小児がん診療の連携協力体制の事例に関する情報の収集、提供をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	172	✓	○
カの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	0	件	173	✓	
キ 医療関係者と患者会等が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	174	✓	○
キの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	2	件	175	✓	
ク AYA世代にあるがん患者に対する治療や就学、就労支援等に関する相談に対応し支援をしている。なお、自施設での対応が困難な場合は、がん診療連携拠点病院等の相談支援センター等と連携を図り、適切に対応している。	A	はい	(はい/いいえ)	176	✓	○
クの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	40	件	177	✓	
ケ 必要に応じて、小児がん連携病院や地域の医療機関等に対して相談支援に関する支援を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	178	✓	○
ケの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	1	件	179	✓	
コ その他相談支援に関することを行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	180	✓	○

この相談件数(平成30年1月1日～12月31日)

0 件

181

(2)院内がん登録

① がん登録等の推進に関する法律(平成25年法律第111号)第44条第1項の規定に基づき定められた、院内がん登録の実施に係る指針(平成27年厚生労働省告示第470号)に即して院内がん登録を実施している。	A	はい	(はい/いいえ)	182	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 院内がん登録に係る実務に関する責任部署を明確にし、当該病院の管理者又はこれに準ずる者を長とし、医師、看護師及び診療情報管理士等から構成され、当該病院における院内がん登録の運用上の課題の評価及び活用に係る規定の策定等を行う機関を設置している。	A	はい	(はい/いいえ)	183	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 院内がん登録の実務を担う者として、国立がん研究センターが提供する研修で中級認定者の認定を受けている者の人数	A	1	人 1人以上	184	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
うち専従者の人数	-	1	人	185	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
配置された者は国立がん研究センターが示すがん登録に係るマニュアルに習熟している。	A	はい	(はい/いいえ)	186	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 院内がん登録の登録様式については、国立がん研究センターが提示する院内がん登録に係る標準様式に準拠している。	A	はい	(はい/いいえ)	187	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 適宜、登録対象者の生存の状況を確認している。	-	はい	(はい/いいえ)	188	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 院内がん情報等を全国規模で収集し、当該情報を基にしたがん統計等の算出等を行うため、毎年、国立がん研究センターに情報提供している。	-	はい	(はい/いいえ)	189	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 院内がん情報を取り扱うに当たっては、情報セキュリティに関する基本的な方針を定めている。	B	はい	(はい/いいえ)	190	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ 院内がん登録を活用することにより、都道府県の実施するがん対策等に必要情報を提供している。	A	はい	(はい/いいえ)	191	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(3)診療実績、診療機能等の情報提供

小児がん及びAYA世代で発症するがんについて、自施設及び自らが指定した小児がん連携病院の診療実績、診療機能及び医療従事者の専門とする分野・経歴などを、わかりやすく情報提供している。	A	はい	(はい/いいえ)	192	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
情報提供の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	医療機関のホームページに掲載		193	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(4)その他

地域住民に対する病院、相談支援センター、緩和ケアチーム、緩和ケア病棟(設置されているのみ)に関するアピールを別紙21に記載すること。		別紙21		194	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
--------------------------------------------------------------------	--	------	--	-----	-------------------------------------	--------------------------

4 臨床研究に関すること

他の拠点病院や小児がん連携病院とも連携し、オールジャパン体制で臨床研究を推進している。	A	はい	(はい/いいえ)	195	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(1) 治験を除く臨床研究を行うに当たっては、臨床研究法(平成29年法律第16号)に則った体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)	196	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(2)-1 進行中の臨床試験(治験を除く。以下同じ。)の概要および過去の臨床試験の成果を広報している。	A	はい	(はい/いいえ)	197	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
広報の手段について、簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	関及びJCCGのホームページ		198	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(2)-2 進行中の臨床試験以外の小児がんに関連する臨床研究(特にトランスレーショナルリサーチ)の概要および過去の臨床研究の成果を広報している。	A	はい	(はい/いいえ)	199	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
広報の手段について、簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	関及びJCCGのホームページ		200	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(3) 参加中の治験について、その対象であるがんの種類および薬剤名等を広報している。	B	はい	(はい/いいえ)	201	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
広報の手段について、簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	関及びJCCGのホームページ		202	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(4) 臨床研究を支援する専門の部署を設置している。	B	はい	(はい/いいえ)	203	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
設置していない場合は設置の予定時期	-	年月	(西暦XXXX年XX月)	204	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

	別紙22	209	
(5) 臨床研究を支援する専門の各部門のメンバーについて別紙22に記載すること。 臨床研究コーディネーター(CRC)を配置している。	B はい	210	(はい/いいえ) <input checked="" type="checkbox"/>

臨床研究コーディネーターを配置している場合、その人数	-	8	人	211	<input checked="" type="checkbox"/>	
臨床研究の問い合わせ窓口について別紙23に記載すること。		別紙23		212		
臨床研究の実施総件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	14	件	213	<input checked="" type="checkbox"/>	
臨床試験以外の臨床研究実施総件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	5	件	214	<input checked="" type="checkbox"/>	
治験の実施総件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	12	件	215	<input checked="" type="checkbox"/>	
5 患者の発育および教育等に関して必要な環境整備						
(1) 保育士を配置している。	A	はい	(はい/いいえ)	217	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
保育士の人数	-	10	人	218	<input checked="" type="checkbox"/>	
保育士のうち常勤の人数	-	10	人	219	<input checked="" type="checkbox"/>	
(2) 病弱等の特別支援学校または小中学校の病弱・身体虚弱等の特別支援学級による教育支援(特別支援学校による訪問教育を含む。)が行われている。	A	はい	(はい/いいえ)	220	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
特別支援学校(養護学校)の分校・分教室がある。	-	はい	(はい/いいえ)	221	<input checked="" type="checkbox"/>	
特別支援学校(養護学校)による訪問教育を行っている。	-	はい	(はい/いいえ)	222	<input checked="" type="checkbox"/>	
病院内に特別支援学級が設置されている。	-	はい	(はい/いいえ)	223	<input checked="" type="checkbox"/>	
高等学校段階においても必要な教育支援を行っている。	-	はい	(はい/いいえ)	224	<input checked="" type="checkbox"/>	
(3) 退院時の復園および復学支援が行われている。	A	はい	(はい/いいえ)	225	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
教育支援、復園・復学支援の状況について別紙24に記載すること。		別紙24		226		
(4) 子どもの発達段階に応じた遊戯室等を設置している。	A	はい	(はい/いいえ)	227	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
AYA世代(思春期および若年成人)のための場所を確保している。	-	はい	(はい/いいえ)	228	<input checked="" type="checkbox"/>	
(5) 家族等が利用できる長期滞在施設またはこれに準じる施設が整備されている。	A	はい	(はい/いいえ)	229	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
部屋数	-	23	部屋	230	<input checked="" type="checkbox"/>	
長期滞在施設が自施設内に設置されている。	-	いいえ	(はい/いいえ)	231	<input checked="" type="checkbox"/>	
長期滞在施設またはこれに準じる施設について別紙25に記載すること。		別紙25		232		
(6) 家族等の希望により、24時間面会または患者の付き添いができる体制を構築している。	A	はい	(はい/いいえ)	233	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(7) 患者のきょうだいに対する保育の体制整備を行っている。	B	はい	(はい/いいえ)	234	<input checked="" type="checkbox"/>	
6 PDCAサイクル						
(1) 自施設及び小児がん連携病院の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、がん患者の療養生活の質について把握・評価し、課題認識を関係者で共有した上で、適切な改善策を講じている。	A	はい	(はい/いいえ)	236	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
把握・評価の方法、改善策等について別紙26に記載すること。		別紙26		237		
(2) これらの実施状況につき、地域ブロック協議会において、情報共有と相互評価を行うとともに、地域に対してわかりやすく広報を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	238	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
地域への広報の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	報告書、ご意見等の院内掲		239		
7 医療安全体制						
(1) 組織上明確に位置づけられた医療に係る安全管理を行う部門(以下「医療安全管理部門」という。)を設置し、病院一体として医療安全対策を講じている。また、当該部門の長として常勤の医師を配置している。	A	はい	(はい/いいえ)	241	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(2) 医療に係る安全管理を行う者(以下「医療安全管理者」という。)として(1)に規定する医師に加え、専任で常勤の薬剤師及び専従で常勤の看護師を配置している。	A	はい	(はい/いいえ)	242	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(3) 医療安全管理者は、医療安全対策に係る研修を受講している。

A

はい

(はい/いいえ)²⁴³



<p>(4) 当該施設で未承認新規医薬品の使用や承認薬の適応外使用や高難度新規医療技術を用いた医療の提供を実施している。</p>	-	はい	(はい/いいえ)	244	✓	
<p>当該施設で未承認新規医薬品の使用や承認薬の適応外使用や高難度新規医療技術を用いた医療の提供を実施する場合は、以下の体制を整備している。※上段で「いいえ」の場合、以下の3つの項目は、「-」を選択してください。</p>						
<p>① 当該医療の適応の安全性や妥当性、倫理性について検討するための組織(倫理審査委員会、薬事委員会等。なお当該組織は既設の組織であっても構わない。)において、病院として事前に検討を行っている。</p>	A	はい	(はい/いいえ/-)	246	✓	○
<p>② 事前検討を行い、承認された医療を提供する際には、患者・家族に対し適切な説明を行い、書面での同意を得た上で提供している。</p>	A	はい	(はい/いいえ/-)	247	✓	○
<p>③ 提供した医療について、事後評価を行っている。</p>	A	はい	(はい/いいえ/-)	248	✓	○
<p>(5) 医療安全のための患者窓口を設置し、患者からの苦情や相談に応じられる体制を確保している。</p>	A	はい	(はい/いいえ)	249	✓	○
<p>医療安全体制について別紙27に記載すること。</p>		別紙27		250		

先進医療への対応状況(小児がんに関するもの)

記載の有無

なし

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 国立研究開発法人国立成育医療研究センター

時期・期間: 令和元年9月1日現在(実施件数は平成31年4月1日～令和元年7月31日)

先進医療窓口情報							
先進医療の実施		(実施しています／実施していません)					
先進医療A	問い合わせ窓口	(窓口があります／窓口がありません)					
	窓口名						
	技術名						
	電話番号	代表		内線			
		直通					
	対象となる病名・病状						
	実施件数(平成31年4月1日～令和元年7月31日)				件		
問い合わせ窓口		(窓口があります／窓口がありません)					
窓口名							
技術名							
先進医療B	電話番号	代表		内線			
		直通					
対象となる病名・病状							
実施件数(平成31年4月1日～令和元年7月31日)				件			

各種小児がんの情報

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

小児がんについての対応状況を記載してください。

※ 各医療機関において「専門とするがん」とは、集学的治療および緩和ケアを提供する体制が整備されているとともに、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療等のがん患者の状態に応じた適切な治療を提供する体制が整備されているがんのことをさします。

※ 診療を実施していないがんについて、表の記載は不要です。

※ 内視鏡下手術用ロボットを用いた手術に関しては、その他の治療法の欄に記載すること。

✓チェック欄に未入力なし

小児脳腫瘍

病院名: 国立研究開発法人国立成育医療研究センター

時期・期間: 令和元年9月1日現在(実績は平成30年1月1日～12月31日)

OK

集学的治療の実施状況 (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数				治療の実施状況(○:実施可/×:実施不可) 昨年実績(あり/なし) ※平成30年1月1日～12月31日										当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ					
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	手術	化学療法	放射線療法				陽子線治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と合わせてください			各診療科における当該疾患の治療 の特色・患者さんへのメッセージなど	※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページから コピーしてください		掲載されている内容			
					体外照射	定位放射線療法	IMRT	小線源治療		他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)		見出し	アドレス	治療内容	治療実績	医師の専門分野	
1 小児がんセンター	16	2	状況 実績	○ あり						○ あり				脳腫瘍や脊髄腫瘍などの中樞神経系腫瘍の診断や治療を行います。脳神経外科、放射線治療科と一体となって、あらゆる小児脳腫瘍に対応してチーム医療を提供します。日本小児がん研究グループの複数の脳腫瘍の多施設共同臨床試験へ積極的に参加しています。小児脳腫瘍の治療は、個々の病態に応じたテーラーメイドの治療が必要です。各専門医の協力のもと、脳腫瘍カンファレンスで治療方針を決定し、手術・化学療法・放射線療法による包括的な治療を行っています。外科治療は、必要に応じて、神経ナビゲーションを用い、脳の当セクターでは、全ての放射線検査に対して、放射線科診断医が主体的に各診療科と共同して検査を行っています。実施される全ての放射線検査について診断報告書を作成し、救急センターの要請にも24時間体制で対応しています。また、小児がんの多施設共同臨床小児がんセンター、小児外科、脳神経外科と協力して、小児に発生したがん全般の放射線治療を担当します。代表的な小児がんである脳腫瘍、神経芽腫、横紋筋肉腫、ユースティング腫瘍等が放射線治療の対象となります。白血病などの骨髄移植前処置の全身照射も検査診断時には、組織診断、細胞診断、病理解剖診断を行っています。免疫組織化学検査、電子顕微鏡検査、遺伝子検査等の特殊検査を行い、より精度の高い診断を目指しています。小児がんにおいては、病理診断だけでなく、悪性度、予後を予測する遺伝子異常の	脳神経腫瘍科	https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/cancer/s	掲載あり	掲載あり	掲載あり
2 脳神経外科	5	2	状況 実績	○ あり										脳神経外科	https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/zuuki	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
3 放射線診断科	9	2	状況 実績											放射線診断科	https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/radiation	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
4 放射線治療科	2	1	状況 実績		○ あり	○ あり	○ あり	× なし	× なし					放射線治療科	https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/radiation	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
5 病理診断部	3	2	状況 実績											病理診断部	https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/pathology	掲載あり	掲載あり	掲載あり	

その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください	治療名	治療内容
他の治療(1)	自己造血幹細胞移植を伴う大量化学療法	
他の治療(2)		
他の治療(3)		
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日		

小児の眼・眼窩腫瘍

集学的治療の実施状況 ○ (○: 専門とするがん/ ×: 診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数		治療の実施状況 (○: 実施可/ ×: 実施不可) 昨年実績 (あり/なし) ※平成30年1月1日～12月31日											当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ							
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	手術	冷凍凝固術	光凝固術	化学療法	眼動注	放射線療法			陽子線治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と合わせてください			各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		掲載されている内容		
								体外照射	IMRT	小線源治療		他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)		見出し	アドレス	治療内容	治療実績	医師の専門分野
1 小児がんセンター	16	2	状況 実績	× なし			○ あり						○ なし		網膜芽細胞腫の診断や治療を行います。眼科、放射線治療科と一体となって、チーム医療を提供します。	固形腫瘍科	https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/cancer/	掲載あり	掲載あり	掲載あり
2 眼科	6	3	状況 実績	○ あり	○ あり	○ あり	× なし								小児眼科分野での高度先進医療センターとして機能し、専門の医師や視能訓練士が経験と技術を活かし、多数の手術、治療、訓練を行っています。網膜芽細胞腫に対しては、小児がんセンター・放射線診断科・放射線治療科と連携し集学的治療を行っています。	眼科	https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/kankaku/	掲載あり	掲載あり	掲載あり
3 放射線診断科	9	2	状況 実績												当センターでは、全ての放射線検査に対して、放射線科診断医が主体的に各診療科と共同して検査を行っています。実施される全ての放射線検査について診断報告書を作成し、救急センターの要請にも24時間体制で対応しています。また、小児がんの多施設共同臨床	放射線診断科	https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/radiation/	掲載あり	掲載あり	掲載あり
4 放射線治療科	2	1	状況 実績					○ あり	○ なし	× なし	× なし				小児がんセンター、小児外科、脳神経外科と協力して、小児に発生したがん全般の放射線治療を担当します。代表的な小児がんである脳腫瘍、神経芽腫、横紋筋肉腫、ユースング腫瘍等が放射線治療の対象となります。白血病などの骨髄移植前処置の全身照射も	放射線治療科	https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/radiation/	掲載あり	掲載あり	掲載あり
5 病理診断部	3	2	状況 実績												病理診断科では、組織診断、細胞診断、病理解剖診断を行っています。免疫組織化学検査、電子顕微鏡検査、遺伝子検査等の特殊検査を行い、より精度の高い診断を目指しています。小児がんにおいては、病理診断だけでなく、悪性度・予後を予測する遺伝子異常の	病理診断部	https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/pathology/	掲載あり	掲載あり	掲載あり
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください				治療名								治療内容								
他の治療(1)				自己造血幹細胞移植を伴う大量化学療法																
他の治療(2)																				
他の治療(3)																				
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日																				

小児悪性骨軟部腫瘍

集学的治療の実施状況 ○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数		治療の実施状況(○:実施可/×:実施不可) 昨年の実績(あり/なし) ※平成30年1月1日～12月31日										当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ									
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	手術				化学療法	放射線療法		陽子線治療	重粒子線治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と合わせてください			各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		掲載されている内容			
			切・離断術	患肢温存術	再建術	骨移植術		体外照射	小線源治療			他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)		見出し	アドレス	治療内容	治療実績	医師の専門分野	
1 小児がんセンター	16	4	○									○			骨肉腫、ユーイング肉腫、骨髄質腫瘍など、小児の悪性骨軟部腫瘍の診断や治療を行います。当センター整形外科、連携している慶應院整形外科、小児外科、放射線治療科と一体となってチーム医療を提供します。日本小児がん研究グループのユースイング腫瘍や小児の骨軟部腫瘍については、小児特有の疾患や病態があります。そのため、専門的な知識・経験を持った医師が1か月に2回、専門外来を担当しています。悪性骨軟部腫瘍に対しては、小児がんセンター・放射線診断科・放射線治療科と連携し集学的治療を行っています。当院の固形がん手術件数は全国トップレベルで、豊富な経験と知識に基づき最善の外科治療を提供できる体制を整えています。また、小児専門病院の強みとして、専門性の高い各診療科が連携して高度医療を提供しており、小児がんセンターの内科系診療科、放射線診断科、放射線治療科は、全ての放射線検査に対して、放射線科診断医が主体的に各診療科と共同して検査を行っています。実施される全ての放射線検査について診断報告書を作成し、救急センターの要請にも24時間体制に対応しています。また、小児がんの多施設共同臨床小児がんセンター、小児外科、脳神経外科と協力して、小児に発生したがん全般の放射線治療を担当します。代表的な小児がんである脳腫瘍、神経芽腫、横紋筋肉腫、ユーイング腫瘍等が放射線治療の対象となります。白血病などの骨髄移植前処置の全身照射も	骨肉腫、ユーイング肉腫、骨髄質腫瘍など、小児の悪性骨軟部腫瘍の診断や治療を行います。当センター整形外科、連携している慶應院整形外科、小児外科、放射線治療科と一体となってチーム医療を提供します。日本小児がん研究グループのユースイング腫瘍や小児の骨軟部腫瘍については、小児特有の疾患や病態があります。そのため、専門的な知識・経験を持った医師が1か月に2回、専門外来を担当しています。悪性骨軟部腫瘍に対しては、小児がんセンター・放射線診断科・放射線治療科と連携し集学的治療を行っています。当院の固形がん手術件数は全国トップレベルで、豊富な経験と知識に基づき最善の外科治療を提供できる体制を整えています。また、小児専門病院の強みとして、専門性の高い各診療科が連携して高度医療を提供しており、小児がんセンターの内科系診療科、放射線診断科、放射線治療科は、全ての放射線検査に対して、放射線科診断医が主体的に各診療科と共同して検査を行っています。実施される全ての放射線検査について診断報告書を作成し、救急センターの要請にも24時間体制に対応しています。また、小児がんの多施設共同臨床小児がんセンター、小児外科、脳神経外科と協力して、小児に発生したがん全般の放射線治療を担当します。代表的な小児がんである脳腫瘍、神経芽腫、横紋筋肉腫、ユーイング腫瘍等が放射線治療の対象となります。白血病などの骨髄移植前処置の全身照射も	固形腫瘍科	http://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/cancer/	掲載あり	掲載あり	掲載あり
2 整形外科	7	0	×	×	×	×									小児の骨軟部腫瘍については、小児特有の疾患や病態があります。そのため、専門的な知識・経験を持った医師が1か月に2回、専門外来を担当しています。悪性骨軟部腫瘍に対しては、小児がんセンター・放射線診断科・放射線治療科と連携し集学的治療を行っています。当院の固形がん手術件数は全国トップレベルで、豊富な経験と知識に基づき最善の外科治療を提供できる体制を整えています。また、小児専門病院の強みとして、専門性の高い各診療科が連携して高度医療を提供しており、小児がんセンターの内科系診療科、放射線診断科、放射線治療科は、全ての放射線検査に対して、放射線科診断医が主体的に各診療科と共同して検査を行っています。実施される全ての放射線検査について診断報告書を作成し、救急センターの要請にも24時間体制に対応しています。また、小児がんの多施設共同臨床小児がんセンター、小児外科、脳神経外科と協力して、小児に発生したがん全般の放射線治療を担当します。代表的な小児がんである脳腫瘍、神経芽腫、横紋筋肉腫、ユーイング腫瘍等が放射線治療の対象となります。白血病などの骨髄移植前処置の全身照射も	整形外科	https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/zoeki/	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
3 腫瘍外科・小児外科	10	3	×	×	×	×									小児の骨軟部腫瘍については、小児特有の疾患や病態があります。そのため、専門的な知識・経験を持った医師が1か月に2回、専門外来を担当しています。悪性骨軟部腫瘍に対しては、小児がんセンター・放射線診断科・放射線治療科と連携し集学的治療を行っています。当院の固形がん手術件数は全国トップレベルで、豊富な経験と知識に基づき最善の外科治療を提供できる体制を整えています。また、小児専門病院の強みとして、専門性の高い各診療科が連携して高度医療を提供しており、小児がんセンターの内科系診療科、放射線診断科、放射線治療科は、全ての放射線検査に対して、放射線科診断医が主体的に各診療科と共同して検査を行っています。実施される全ての放射線検査について診断報告書を作成し、救急センターの要請にも24時間体制に対応しています。また、小児がんの多施設共同臨床小児がんセンター、小児外科、脳神経外科と協力して、小児に発生したがん全般の放射線治療を担当します。代表的な小児がんである脳腫瘍、神経芽腫、横紋筋肉腫、ユーイング腫瘍等が放射線治療の対象となります。白血病などの骨髄移植前処置の全身照射も	腫瘍外科	https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/cancer/	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
4 放射線診断科	9	2													小児の骨軟部腫瘍については、小児特有の疾患や病態があります。そのため、専門的な知識・経験を持った医師が1か月に2回、専門外来を担当しています。悪性骨軟部腫瘍に対しては、小児がんセンター・放射線診断科・放射線治療科と連携し集学的治療を行っています。当院の固形がん手術件数は全国トップレベルで、豊富な経験と知識に基づき最善の外科治療を提供できる体制を整えています。また、小児専門病院の強みとして、専門性の高い各診療科が連携して高度医療を提供しており、小児がんセンターの内科系診療科、放射線診断科、放射線治療科は、全ての放射線検査に対して、放射線科診断医が主体的に各診療科と共同して検査を行っています。実施される全ての放射線検査について診断報告書を作成し、救急センターの要請にも24時間体制に対応しています。また、小児がんの多施設共同臨床小児がんセンター、小児外科、脳神経外科と協力して、小児に発生したがん全般の放射線治療を担当します。代表的な小児がんである脳腫瘍、神経芽腫、横紋筋肉腫、ユーイング腫瘍等が放射線治療の対象となります。白血病などの骨髄移植前処置の全身照射も	放射線診断科	https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/radiation/	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
5 放射線治療科	2	1						○	×	×	×				小児の骨軟部腫瘍については、小児特有の疾患や病態があります。そのため、専門的な知識・経験を持った医師が1か月に2回、専門外来を担当しています。悪性骨軟部腫瘍に対しては、小児がんセンター・放射線診断科・放射線治療科と連携し集学的治療を行っています。当院の固形がん手術件数は全国トップレベルで、豊富な経験と知識に基づき最善の外科治療を提供できる体制を整えています。また、小児専門病院の強みとして、専門性の高い各診療科が連携して高度医療を提供しており、小児がんセンターの内科系診療科、放射線診断科、放射線治療科は、全ての放射線検査に対して、放射線科診断医が主体的に各診療科と共同して検査を行っています。実施される全ての放射線検査について診断報告書を作成し、救急センターの要請にも24時間体制に対応しています。また、小児がんの多施設共同臨床小児がんセンター、小児外科、脳神経外科と協力して、小児に発生したがん全般の放射線治療を担当します。代表的な小児がんである脳腫瘍、神経芽腫、横紋筋肉腫、ユーイング腫瘍等が放射線治療の対象となります。白血病などの骨髄移植前処置の全身照射も	放射線治療科	http://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/radiation/	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください			治療名						治療内容												
他の治療(1)			自己造血幹細胞移植を伴う大量化学療法																		
他の治療(2)																					
他の治療(3)																					
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日																					

その他の小児固形腫瘍

集学的治療の実施状況 ○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数				治療の実施状況(○:実施可/×:実施不可) 昨年実績(あり/なし) ※平成30年1月1日～12月31日									各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ				
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	手術	化学療法	放射線療法		陽子線治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と合わせてください			※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	掲載されている内容						
					体外照射	小線源治療		他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)		治療内容		治療実績	医師の専門分野			
			状況							見出し	アドレス							
1	小児がんセンター	16	4	状況	○				○			神経芽腫、横紋筋肉腫、肝腫瘍、骨腫瘍、胚細胞腫瘍など小児の悪性固形腫瘍の診断や治療を行います。日本小児がん研究グループの多施設共同臨床試験へ積極的に参加しています。当センターの多くのスタッフが主要な小児がんの疾患委員となっており、特に神経芽腫の固形がん手術件数は全国トップレベルで、豊富な経験と知識に基づき最善の外科治療を提供できる体制を整えています。また、小児専門病院の強みとして、専門性の高い各診療科が連携して高度医療を提供しており、小児がんセンターの内科系診療科、放射線診療科では、全ての放射線検査に対して、放射線科診断医が主体的に各診療科と共同して検査を行っています。実施される全ての放射線検査について診断報告書を作成し、救急センターの要請にも24時間体制で対応しています。また、小児がんの多施設共同臨床小児がんセンター、小児外科、脳神経外科と協力して、小児に発生したがん全般の放射線治療を担当します。代表的な小児がんである脳腫瘍、神経芽腫、横紋筋肉腫、ユースング腫瘍等が放射線治療の対象となります。白血病などの骨髄移植前処置の全身照射も病理診断科では、組織診断、細胞診断、病理解剖診断を行っています。免疫組織化学検査、電子顕微鏡検査、遺伝子検査等の特殊検査を行い、より精度の高い診断を目指しています。小児がんにおいては、病理診断だけでなく、悪性度・予後を予測する遺伝子異常の	固形腫瘍科	http://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/cancer/s	掲載あり	掲載あり	掲載あり	
2	腫瘍外科・小児外科	10	3	状況	○					○	腫瘍外科		https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/cancer/s	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
3	放射線診断科	9	2	状況							放射線診断科		https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/zoiki	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
4	放射線治療科	2	1	状況		○	×	×		○	放射線治療科		http://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/radiation/	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
5	病理診断部	3	2	状況							病理診断部		https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/patholog	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください				治療名							治療内容							
他の治療(1)				自己造血幹細胞移植を伴う大量化学療法														
他の治療(2)				IMRT														
他の治療(3)				肝腫瘍に対する生体肝移植							移植外科が協力して肝腫瘍の外科療法に取り組んでいる。 https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/special/about.html							
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日																		

小児血液腫瘍

集学的治療の実施状況 ○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数				治療の実施状況(○:実施可/×:実施不可) 昨年の実績(あり/なし) ※平成30年1月1日～12月31日										当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ						
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	化学療法	移植			放射線療法		その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と合わせてください			各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		掲載されている内容					
				自家末梢血幹細胞移植	血縁者間同種造血幹細胞移植	非血縁者間同種骨髄移植または臍帯血移植	体外照射	全身照射	他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)		見出し	アドレス	治療内容	治療実績	医師の専門分野			
1 小児がんセンター	16	4	○	○	○	○							白血病、リンパ腫、組織球症など小児の造血器悪性腫瘍の診断や治療を行います。本小児がん研究グループの多施設共同臨床試験に属し、多施設共同臨床研究を行っています。白血病・リンパ腫に関しては、初発のみならず再発・難治症例は数多く診療しています。また当センターでは、全ての放射線検査に対して、放射線科診断医が主体的に各診療科と共同して検査を行っています。実施される全ての放射線検査について診断報告書を作成し、救急センターの要請にも24時間体制で対応しています。また小児がんの多施設共同臨床小児がんセンター、小児外科、脳神経外科と協力して、小児に発生したがん全般の放射線治療を担当します。代表的な小児がんである脳腫瘍、神経芽腫、横紋筋肉腫、ユースング腫瘍等が放射線治療の対象となります。白血病などの骨髄移植前処置の全身照射も病理診断科では、組織診断、細胞診断、病理解剖診断を行っています。免疫組織化学検査、電子顕微鏡検査、遺伝子検査等の特殊検査を行い、より精度の高い診断を目指しています。小児がんにおいては、病理診断だけでなく、悪性度・予後を予測する遺伝子異常の	血液腫瘍科	http://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/cancer/	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
2 放射線診断科	9	2	あり	あり	あり	あり								放射線診断科	https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/radiation/	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
3 放射線治療科	2	1					○	○						放射線治療科	http://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/radiation/	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
4 病理診断部	3	2												病理診断部	https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/pathology/	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
5																				
その他の治療法 ※上記の実績欄と合わせて記載してください				治療名							治療内容									
他の治療(1)																				
他の治療(2)																				
他の治療(3)																				
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日																				

長期にわたり診療するための具体的な診療体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 国立研究開発法人国立成育医療研究センター

時期・期間: 令和元年9月1日現在

自施設内における長期フォローアップの体制、他施設との連携による長期フォローアップの体制等について具体的に記載すること。必要に応じて図を用いても構いません。1枚におさめること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙3を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

ファイル形式

(ワード/一太郎/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

○フォローアップ対象: 治療施設、治療内容に関わらず小児がん経験者

○フォローアップ外来: 腫瘍科外来(月・金曜日: 午前、火・水・木曜日: 午後)

○フォローアップ外来担当者: 腫瘍科医長、医員、専任看護師、臨床心理士ほか

○フォローアップ診療の実際

- 1) 担当医、専任看護師による疾患、治療、長期フォローアップの必要性の説明
- 2) 疾患・治療サマリー、フォローアップ計画概要を記したリーフレットの提示
- 3) 専任看護師による予診・面談
- 4) 晩期合併症リスクに応じた評価
- 5) 年齢、居住地域、病態に応じた施設内外の専門医等と連携
 - ・専門診療医(内分泌科、循環器科など)による晩期合併症検診と早期介入
 - ・専門診療医(産科など)による妊娠・出産に関する相談、妊娠管理・分娩に対応
 - ・居住地域の医療機関、成人診療機関への紹介
 - ・社会復帰支援としてソーシャルワーカー、学校、地域の保健師、訪問診療医療機関など

(参考)晩期合併症の情報リーフレット「治療がおわったあとのこと」のご案内

リーフレット「治療がおわったあとのこと」～男の子のからだ～ <http://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/cancer/leaflet01.pdf>

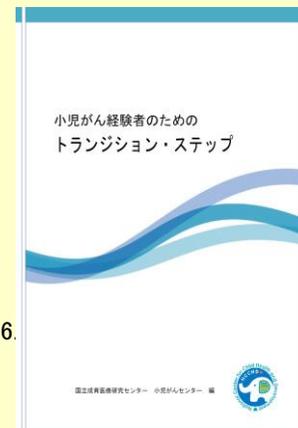
リーフレット「治療がおわったあとのこと」～女の子のからだ～ <http://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/cancer/leaflet02.pdf>

リーフレット「治療がおわったあとのこと」～心臓～ <http://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/cancer/leaflet03.pdf>

リーフレット「治療がおわったあとのこと」～肺～ <http://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/cancer/leaflet04.pdf>

リーフレット「治療がおわったあとのこと」～二次がん～ <http://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/cancer/leaflet05.pdf>

冊子「小児がん経験者のためのトランジション・ステップ」(医療従事者の方向け) <http://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/cancer/leaflet06>





AYA世代への診療提供体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 国立研究開発法人国立成育医療研究センター

時期・期間： 令和元年9月1日現在

AYA世代への診療提供体制(自施設・他施設の成人診療科との連携状況等)について記載すること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙4を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

ファイル形式

(ワード/一太郎/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

当院は小児病院であるため、AYA世代のがんの中でも、比較的若年者の新規発症症例に対応している。また、小児がんセンター内に小児がん長期フォローアップ科を設置し、小児がんの長期フォローアップ外来を通じて、AYA世代になった小児がん患者の二次がんにも対応している。

入院に関しては、AYA世代を診療する病棟として、10階西病棟をAYA世代のがん患者対応とし、診療を行っている。平成30年8月には、10階西病棟にクリーンルームを2室新設し、AYA世代の造血細胞移植の療養環境を整備した。また、AYA世代の学習支援の一環として、病棟内の食堂に仕切板の付いた学習机を設置する計画である。

なお、一部のAYA世代に発症する悪性腫瘍に関して、多施設で診療することがより適切であると考えられる場合は、その医療機関との連携を強化して対応している。また、成人に達したAYA世代がんに関しては、必要に応じてトランジションを行っている。病院全体の移行期医療の取り組みとして、国立国際医療研究センターや国立病院機構東京医療センターとの連携を深めており、病院合同カンファレンス等を行なっている。

生殖機能の温存の支援を行う体制

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無 **あり**

患者数の記載と別添資料の提出有無の選択をしてください

病院名: **国立研究開発法人国立成育医療研究センター**

時期・期間: **令和元年9月1日現在(患者数は平成30年1月1日～12月31日)**

■生殖機能の温存の支援を行った患者数について記載すること。

がんの治療に際する妊よう性温存目的で精子保存を行った患者の数(平成30年1月1日～12月31日)	
がんの治療に際する妊よう性温存目的で未受精卵子、受精卵(胚)、あるいは、卵巣組織の凍結保存を行った患者の数(平成30年1月1日～12月31日)	
がんの治療に際する妊よう性温存のために、妊よう性温存ができる他の施設へ紹介した患者の数(平成30年1月1日～12月31日)	

未入力あり

■生殖機能の温存の支援を行う体制について記載すること。(他施設との連携がある場合は、その連携についても記載すること)

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙5を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無 **なし** (あり/なし)

ファイル形式 **Word/Word/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他**

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

妊孕性温存に関しては、両親に話をした上で、9～10歳以降は、本人へ情報提供を行っている。また、治療終了後、退院前や長期フォローアップ外来で情報提供を行うようにしている。
また、こどもサポートチームを中心とした多職種連携により、身体的、精神的サポートを行っている。

主な連携としては、聖マリアンナ医科大学の産婦人科と連携を行い、男性精子保存に関しては、獨協医科大学埼玉医療センターリプロダクションセンターや都内のクリニックと連携を行っている。

なお、2016年度がん登録例113人のうち、妊孕性温存術を施行した患者は2人であった。

治療が終わった後のこと ～女の子のからだ～

みんなの身体はほとんど成長しています。小学校高学年くらいから、女の子と女の子の差(ちがひ)がはっきり出てきます。これは胸から髪の毛が出て、おなかの中にある卵巣(らんそう)からホルモンが分泌されます。

からだの変化

- 胸(むね)がふくらむ
- ウエストがくびれる
- 足のらひ(足指)が伸びる

8-13歳 思春期のスタート

10-11歳 乳房の発育

足の下の毛(陰毛)が伸びる

12-13歳頃 初経(生理の始まり)

※個人差があります

性腺機能障害とは

- ▶ 二次性徴が見られない
- ▶ 生理が来ない、定期的でない
- ▶ 生理の量が少い、少ない
- ▶ 生理の時の身体の重さがつかない
- ▶ 不妊
- ▶ 生理が早くに終わってしまう(早閉経)
- ▶ 骨粗しょう症

影響が出る可能性のある治療

アルキル化剤 シクロホスファミド イホスファミド プルミタラン メルファラン フシジン酸(リンチオチン) チオチン

放射線治療(骨髄移植あり) 照射を受ける領域: 全身以上 照射下部: 全身 40G以上

副作用: 造血機能障害 骨髄抑制

性腺機能障害の治療

- ▶ ホルモン補充療法

妊娠出産について

- ▶ 妊娠した場合は産科管理
- ▶ 一部制限を受けた産科での出産・出産後、産科専門医や産科助産師による産科管理
- ▶ 産科管理に合わせた産科管理
- ▶ 生殖補助医療について: 精子保存、卵巣保存

治療が終わったあとのこと ～女の子のからだ～

みんなの身体はほとんど成長しています。小学校高学年くらいから、男の子と女の子の差(ちがひ)がはっきり出てきます。思春期は、性ホルモンの分泌により「急激な成長の促進(思春期のスタート)」がみられ、男の子らしい体つきになり、生殖機能が正常に、成長が止まり大人になっていく時期です。

からだの変化

9-14歳 思春期のスタート

11-15歳 精巣・陰茎の成長、眉毛、体毛(ひげ毛、すね毛、腋毛、ひげ)が生える

約14年～2年 精巣・陰茎の成長、眉毛、体毛(ひげ毛、すね毛、腋毛、ひげ)が生える

約14年～2年 筋肉や骨格が発達し、体つきががっさりしてきます

のどぼとけが声変わりする

精巣(おちこ)での射精が可能になる

影響が出る可能性のある治療

アルキル化剤 シクロホスファミド イホスファミド プルミタラン メルファラン フシジン酸(リンチオチン) チオチン

副作用: 造血機能障害 骨髄抑制 骨髄抑制 骨髄抑制

性腺機能障害の治療

- ▶ 男性ホルモン補充療法

生殖補助医療、精子保存について

治療が終わったあとのこと ～男の子のからだ～

みんなの身体はほとんど成長しています。小学校高学年くらいから、男の子と女の子の差(ちがひ)がはっきり出てきます。思春期は、性ホルモンの分泌により「急激な成長の促進(思春期のスタート)」がみられ、男の子らしい体つきになり、生殖機能が正常に、成長が止まり大人になっていく時期です。

からだの変化

9-14歳 思春期のスタート

11-15歳 精巣・陰茎の成長、眉毛、体毛(ひげ毛、すね毛、腋毛、ひげ)が生える

約14年～2年 精巣・陰茎の成長、眉毛、体毛(ひげ毛、すね毛、腋毛、ひげ)が生える

約14年～2年 筋肉や骨格が発達し、体つきががっさりしてきます

のどぼとけが声変わりする

精巣(おちこ)での射精が可能になる

影響が出る可能性のある治療

アルキル化剤 シクロホスファミド イホスファミド プルミタラン メルファラン フシジン酸(リンチオチン) チオチン

副作用: 造血機能障害 骨髄抑制 骨髄抑制 骨髄抑制

性腺機能障害の治療

- ▶ 男性ホルモン補充療法

生殖補助医療、精子保存について

薬物療法のレジメンを審査し、組織的に管理する委員会の組織・体制

記載の有無 あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 国立研究開発法人国立成育医療研究センター

開催された委員会の総件数: 12

時期・期間: 平成30年1月1日～12月31日

OK

化学療法のレジメンを審査し、組織的に管理する委員会の名称、開催頻度、委員会のメンバーを記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。

委員会の名称	がん化学療法レジメン審査委員会	
委員会の開催頻度	不定期(新規レジメンが申請されたときに開催)	
委員会のメンバー	職種	役職
例	医師、看護師、薬剤師	腫瘍内科センター長、薬剤部長、副看護部長
1	医師	副病院長・薬剤委員会委員長
2	医師	小児がんセンター長
3	医師	小児がんセンター 血液腫瘍科 診療部長
4	医師	小児がんセンター 移植・細胞治療科 診療部長
5	医師	小児がんセンター 脳神経腫瘍科 診療部長
6	医師	外科 医員
7	医師	脳神経外科 診療部長
8	医師	眼科 医員
9	薬剤師	病棟薬剤師
10	看護師	副看護師長・がん化学療法認定看護師

OK

緩和ケアチームの組織・体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 国立研究開発法人国立成育医療研究センター

時期・期間： 令和元年9月1日現在

緩和ケアチームの総人数： 14

OK

緩和ケアチームの名称、メンバー等を記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。なお、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師（常勤であることが望ましい）、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師（常勤であることが望ましい）、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する常勤の看護師は指定要件に含まれることに留意して記載すること。

OK

緩和ケアチームの名称		こどもサポートチーム		
職種		常勤／非常勤	専門分野	資格等
例	医師、看護師、薬剤師		麻酔科、精神科、がん看護	緩和ケアに関するものを3つまで記載してください。
1	医師	常勤	身体症状担当：緩和ケア科、小児がんセンター	緩和医療学会認定緩和医療専門医、緩和ケアの基本教育に関する指導者研修会修了、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了
2	医師	常勤	精神症状担当：こころの診療部	がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了
3	看護師	常勤	緩和ケア、がん看護	緩和ケア認定看護師、がん化学療法認定看護師
4	薬剤師	常勤	抗がん剤、鎮痛鎮静剤を含む投薬の工夫と服薬指導等	
5	臨床心理士	常勤	小児がん患者・家族の心理支援	
6	ソーシャルワーカー	常勤	小児がん患者家族支援	
7	理学療法士・作業療法士	常勤	小児がんにおける発達評価とリハビリテーション	
8	チャイルド・ライフ・スペシャリスト	常勤	医療環境にあるこどもや家族への心理社会的支援	
9	栄養士	常勤	小児がん患者の栄養管理と食事の工夫	
10	保育士他4名	常勤	小児がん入院患者における保育支援	

緩和ケアチームへの患者紹介の手順

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 国立研究開発法人国立成育医療研究センター

時期・期間： 令和元年9月1日現在

緩和ケアチームへの患者紹介の手順について記載すること。必要に応じて図を用いても構いません。1枚におさめること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙8を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

ファイル形式

(ワード/一太郎/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

対象患者

- ・身体または精神症状があり対応に困っている患者
- ・治癒が指せない(可能性がある)患者
- ・End of lifeを迎える患者

上記患者がいれば主治医もしくは病棟スタッフから緩和ケアチームに連絡
主治医は対診依頼を作成

- ① 依頼があれば主治医チーム、病棟看護師と情報共有を行う
- ② 医師、看護師を含めたチームでの診察
- ③ 診察に基づき、介入方法の推奨を主治医チーム、病棟スタッフと共有
- ④ その後も継続的に医師、看護師、多職種で関わりながら対応方法について継続的に検討

具体的な依頼内容

からだのつらさの評価と対応についての相談(痛み、息切れ、吐き気など)
こころのつらさの評価と対応についての相談(不眠、不安、いらいらなど)
これからの生活、療養についての相談
学校や社会生活、家族に関する相談
治療や療養における意思決定支援

緩和ケア外来の状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 国立研究開発法人国立成育医療研究センター

時期・期間: 令和元年9月1日現在

1	緩和ケア外来が設定されている (はい/いいえ)				はい		
2	緩和ケア外来の名称	緩和ケア外来					
3	担当診療科名	総合診療部緩和ケア科					
4	主な診療内容・特色	緩和医療専門医が担当 ・からだのつらさの評価と対応についての相談 (痛み、息切れ、吐き気など) ・こころのつらさの評価と対応についての相談 (不眠、不安、いらいらなど) ・これからの生活、療養についての相談 ・学校や社会生活、家族に関する相談 ・治療や療養における意思決定支援					
5	緩和ケア外来の説明が掲載されているページ	見出し	緩和ケア科 受診方法				
		アドレス	https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/general/kanwacare.html				
6	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている (はい/いいえ)				はい		
7	■地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口が設定されている (はい/いいえ)				はい	OK	
7	窓口の名称	小児がん相談支援センター					
7	電話	代表	03-3416-0181	(内線)		直通	
8	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている (はい/いいえ)				はい	OK	
8	窓口の名称	小児がん相談支援センター					
8	電話	代表	03-3416-0181	(内線)		直通	

緩和ケア病棟の状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 国立研究開発法人国立成育医療研究センター

時期・期間: 令和元年9月1日現在

※緩和ケア病棟が設定されている場合に限り、「2」以降を記載してください。

1	緩和ケア病棟を有している	病棟があります			
2	緩和ケア病棟入院料の届出・受理	届け出ていない			
3	小児の入院可否	可			
4	緩和ケア病棟の形式	院内病棟型			
5	緩和ケア病棟の病床数	1	床		
6	緩和ケア病棟の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください。	見出し	もみじの家		
		アドレス	https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/momiji/index.html		
7	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい/いいえ）	いいえ			
8	入院予約後の入院までの待機期間 ※転棟、緊急入院を除く	一週間程度			
9	緩和ケア病棟を担当するスタッフの職種・人数(人) ※常勤・非常勤、専従・専任・兼任などに関わらず、緩和ケア病棟の診療に携わっているスタッフについて記載してください。	(例) 医師	2	(例) 精神保健福祉士	1
		医師	2		
		看護師	15		
		保育士	2		
		介護福祉士	1		

OK
OK

■地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										いいえ	OK
10	窓口の名称										
	電話	代表		(内線)				直通			
	問い合わせ窓口について掲載しているホームページ	見出し			アドレス	http://					
■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										いいえ	OK
11	窓口の名称										
	電話	代表		(内線)				直通			
	問い合わせ窓口について掲載しているホームページ	見出し			アドレス	http://					
12	緩和ケア病棟の設備		例: 家族用キッチン、家族室、談話室、ランドリー、デイルーム(食事や面会者との談話、ボランティアによるティーサービスがある)、特殊入浴室								
			家族宿泊室、家族用キッチン、デイルーム(ボランティアによるティーサービスあり)、ランドリー、活動の部屋(保育士、介護福祉士による日中活動あり)、センサーリールーム、音楽室、特殊入浴室、家族風呂								
13	訪問看護ケアの有無		例: 自施設で実施している、同一医療法人の施設で実施している、連携している訪問看護ケアステーションを紹介している、など								
			なし								

地域の医療機関との連携協力体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 国立研究開発法人国立成育医療研究センター

時期・期間： 令和元年9月1日現在

地域の医療機関との連携協力体制について自施設の取り組みや今後の予定を記載すること。(例：診療実績の少ない●●については××病院と協力。●●治療については××病院へ紹介。小児がん患者の在宅医療については●●診療所と連携し、急変時には受け入れることとしている。成人領域については××病院と協力し定期的に情報共有を図っている。)2枚におさめること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙11を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

ファイル形式

(ワード/一太郎/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

小児がん全般

- ・初診患者の大部分は東京周辺(ときに全国)の医療機関からの紹介
- ・紹介元医療機関は開業医、市中病院、大学病院、小児病院などさまざま
- ・治療期間中の外泊・一時退院時に居住地域近隣の医療機関宛に紹介状を作成
- ・希望により居住地域近隣の医療機関と協力・連携したフォローアップ
- ・希望により治療・フォローアップを居住地域近隣の医療機関に引き継ぎ
- ・希望により訪問治療・訪問看護・訪問リハビリを導入し、連携
- ・慶應義塾大学病院と診療分担による連携実績
 - (例)慶應義塾大学病院で外科手術、当センターで内科治療・終末期医療
 - 当センターで入院治療、慶應義塾大学病院で外来診療・在宅対応など
- ・退院後、在宅で診療が必要な患者については、東京23区内はあおぞら診療所墨田と連携し月1回診療所と当院の医師とでカンファレンスを実施している。
それ以外の地域に住んでいる患者については、その都度地域で診療してくれる診療所を探し、診療所と連携を取っている。

骨肉腫

- ・慶應義塾大学病院、国立がん研究センター等を紹介

造血細胞移植

- ・基礎疾患、移植スケジュールなどにより必要があれば他の小児がん拠点病院等を紹介

甲状腺外科術

- ・伊藤病院を紹介

放射線治療

- ・陽子線治療目的により筑波大学附属病院、あるいは静岡県立がんセンターを紹介
- ・サイバーナイフ治療目的により日本赤十字社医療センターを紹介

画像診断

- ・FDG-PET画像撮影目的で国立病院機構東京医療センターなどを紹介

成人疾患に対する診療

- ・疾患(病態)、居住地域などに応じ成人診療施設を紹介(個別に対応)

小児がんに対して、手術、放射線療法または化学療法に携わる専門的な知識 および技能を有する医師によるセカンドオピニオンを提示する体制

記載の有無 あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 国立研究開発法人国立成育医療研究センター
 時期・期間: 令和元年9月1日現在(実績は平成30年1月1日～12月31日)

■病院のホームページで「セカンドオピニオン」の説明が掲載されているページの内容

ホームページ	見出し	セカンドオピニオン外来のご案内	アドレス	https://www.ncchd.go.jp/hospital/second_opinion/index.html		
問い合わせ先の 電話など	対応可能な 疾患名	対応した患者数 (実績)	担当する医師の情報			保険診療、または 保険外診療である旨
			医師名	診療科	専門分野	
掲載あり	掲載あり	掲載なし	掲載あり	掲載あり	掲載あり	掲載あり

疾患ごとに、セカンドオピニオンを担当する医師に関する情報を5名まで記載してください。

※対応状況で「対応不可」を選択した場合は、「セカンドオピニオンを担当している医師」に関する表への記載は不要です。

✓チェック欄
に未入力な
し

小児脳腫瘍

○	※別紙2を反映 ○: 専門とするがん ×: 診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応可	昨年実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	26	件	OK	
セカンドオピニオンを 担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門:○/専門外:×)	当該疾患の専門分野(専門:○/専門外:×)					
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください		
1人目	脳神経外科	○	○					
2人目	放射線治療科	○			○			
3人目	小児がんセンター	○		○				
4人目	小児がんセンター	○		○		放射線診断		
5人目	病理診断部					病理診断		

小児の眼・眼窩腫瘍

○	※別紙2を反映 ○: 専門とするがん ×: 診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応可	昨年実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	0	件	OK	
セカンドオピニオンを 担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門:○/専門外:×)	当該疾患の専門分野(専門:○/専門外:×)					
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください		
1人目	眼科	○	○					
2人目	脳神経外科	○	○					
3人目	放射線治療科	○			○			
4人目	小児がんセンター	○		○				
5人目								

小児悪性骨軟部腫瘍

○	※別紙2を反映 ○:専門とするがん ×:診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応可	昨年実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	5	件	OK	
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門:○/専門外:×)	当該疾患の専門分野(専門:○/専門外:×)					
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください		
1人目	整形外科	○						
2人目	腫瘍外科	○	○					
3人目	放射線治療科	○			○			
4人目	小児がんセンター	○		○				
5人目								

その他の小児固形腫瘍

○	※別紙2を反映 ○:専門とするがん ×:診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応可	昨年実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	26	件	OK	
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門:○/専門外:×)	当該疾患の専門分野(専門:○/専門外:×)					
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください		
1人目	腫瘍外科	○	○			肝移植の専門医あり		
2人目	放射線治療科	○			○			
3人目	小児がんセンター	○		○				
4人目	小児がんセンター	○		○				
5人目	病理診断部	○				病理診断		

小児血液腫瘍

○	※別紙2を反映 ○:専門とするがん ×:診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応可	昨年実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	26	件	OK	
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門:○/専門外:×)	当該疾患の専門分野(専門:○/専門外:×)					
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください		
1人目	小児がんセンター	○		○		造血幹細胞移植		
2人目	小児がんセンター	○		○		造血幹細胞移植		
3人目	小児がんセンター	○		○		造血幹細胞移植		
4人目	病理診断部	○				病理診断		
5人目								

小児がん患者およびその家族が語り合うための場の設定状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 国立研究開発法人国立成育医療研究センター

時期・期間: 令和元年9月1日現在

小児がん患者の遊びの場(プレイルーム等)やAYA世代の交流・勉強の場、患者家族が語り合うための場(患者サロン等)について記載すること。さらにおもちゃ・図書・パソコン・運動設備等の有無、保育士等の配置などについても記載すること。必要に応じて写真を貼付することも可。**2枚以内におさめること。**

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙13を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

ファイル形式

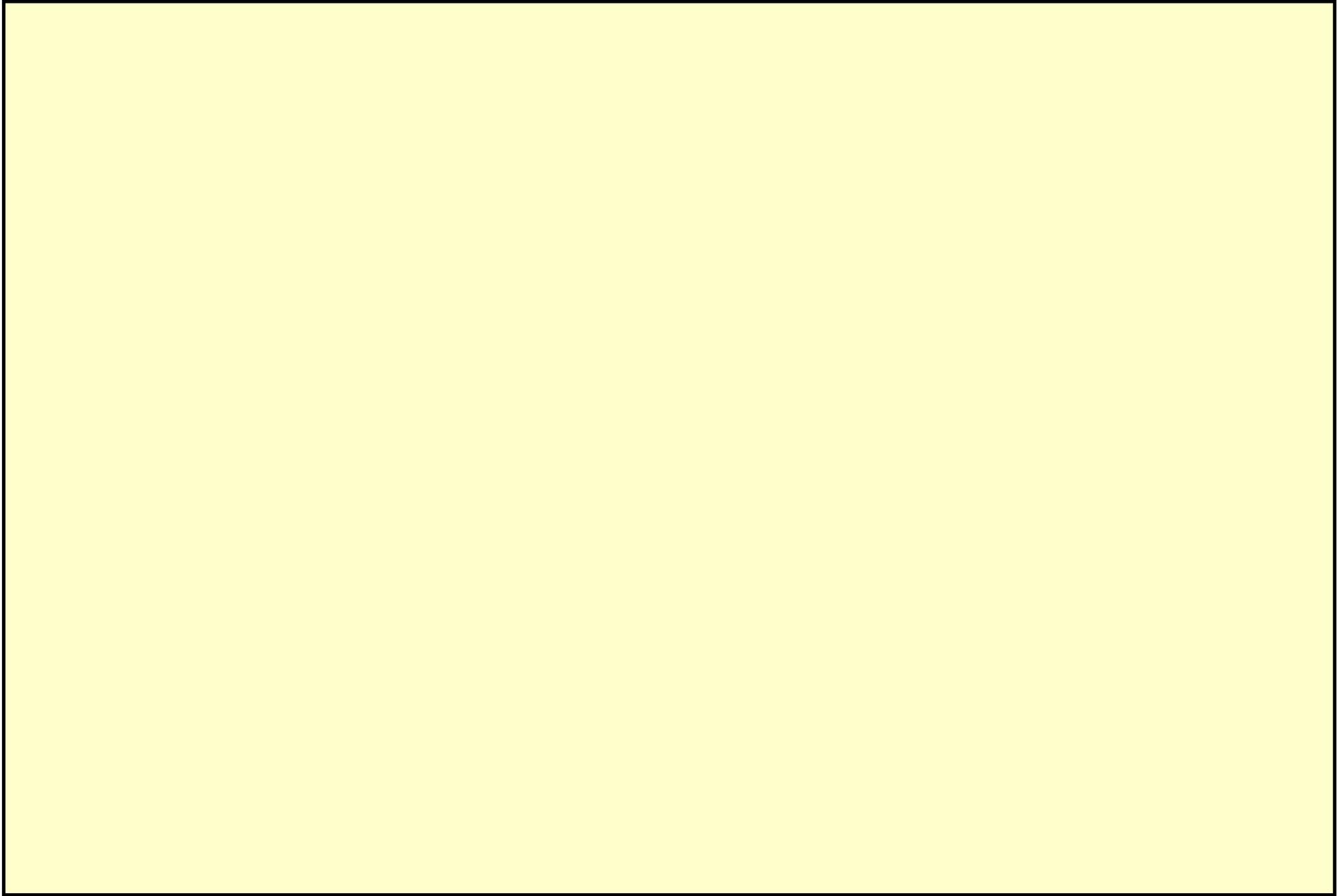
(ワード/一太郎/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

- 病棟内にプレイルームを設置しており、各病棟に保育士1名を配置。発達に応じたおもちゃを設置している。
- 患者と家族を対象に、こころの診療部が「わくわく広場」を月1回開催している。患者(主に未就学児)の交流とともに患者家族の交流する機会を設けている。
- 年1回、小児がん相談支援センター主催で、「小児がん交流フェスタ」を開催。患者家族の交流の場として、他の患者会も参加してもらい、当センターだけでなく、他院の患者家族も交流できる機会を設けている。
- 院内の小児がん患者家族の会「あすなろクラブ」が月1回、茶話会などを行っている。ソーシャルワーカーもその広報活動を行っている。





小児がん患者およびその家族が語り合うための場

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無 あり

下のチェック欄で「未入力あり」がないか確認してください

病院名: 国立研究開発法人国立成育医療研究センター

時期・期間: 令和元年9月1日現在

語り合うための場総件数: 3

OK

1. 小児がん患者およびその家族が語り合うための場を記載してください。

	名称	主催者名	病院 職員 の 関与	活動状況		参加対象者			主な活動内容	参加対象者向けの 院内の問い合わせ窓口 (窓口の名称・電話番号)	
				定期 /不定期	頻度 (回)	病名	院外からの参加 (参加可/参加不可)	患者のみ /家族のみ /患者・家族		名称	電話番号
例	〇〇〇会	〇〇〇会	なし	定期	週 1	小児がん	参加可	患者・家族	小児がん患者の親の交流会を開催している。	相談支援センター XXX-XXXX-XXXX直通	
1	あすなるクラブ	代表 野村様	あり	定期	月 1	小児がん	参加不可	患者・家族	茶話会その他、勉強会やイベントも開催している。	小児がん相談支援センター 03-3416-0181	
2	小児がん交流フェスタ	小児がん相談支援センター	あり	定期	年 1	小児がん	参加可	患者・家族	相談支援センターが主催となり、患者家族向け講演会と交流会を開催している。	小児がん相談支援センター 03-3416-0181	
3	わくわく広場	こころの診療部他	あり	定期	月 1	小児がん	参加可	患者・家族	子どもへの遊びの機会と親同士の交流の機会を提供している。	小児がん相談支援センター 03-3416-0181	
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											

2. 患者および家族向けの図書室の設置状況を記載してください。

※院内の相談支援センターなどの図書室について記載してください。院内図書室以外は3ページ目に記載してください。

1	患者および家族向けの図書室の設置	設置なし	※「設置あり」の場合に限り、以下を記載してください。					
2	図書室の名称							
3	図書室の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し						
		アドレス	http://					
4	利用者の制限 ※選択肢に含まれていない場合はその他の欄に記載		その他					
5	医療系の資料 冊数または種類の数 貸し出しの制限	図 書		雑 誌		医療系のビデオ・DVD	医療系の冊子	
		医学専門書	一般向け医療系図書	医学専門雑誌	一般向け医療系雑誌			
6	利用可能な機器	インターネット接続可能なパソコン		プリンター		コピー機		
7	問い合わせ先電話番号 ※電話番号は半角英数で「-」を用いて記載 ※内線は、設置されている場合のみ記載	代表		(内線)				
		直通1		直通2				
8	対応職員の職種等・人数	(例)看護師	1	人	ボランティア		2	人
				人				人
				人				人
9	ピアサポーターによる対応(実施/未実施)							

OK

未入力あり

3. 院内の相談支援センターなどの図書室以外の場所に図書等が設置されている場合を記載してください。

1	院内図書室以外の場所に図書等の設置	設置あり	※「設置あり」の場合に限り、以下を記載してください。				
2	図書等が設置されている場の名称	情報コーナー					
3	図書室の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	医療連携・患者支援センターについて				
		アドレス	http://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/cooperation/about.html				
4	利用者の制限 ※選択肢に含まれていない場合はその他の欄に記載	制限なし	その他				
5	医療系の資料 冊数または種類の数 貸し出しの制限	図書		雑誌		医療系のビデオ・DVD	医療系の冊子
		医学専門書	一般向け医療系図書	医学専門雑誌	一般向け医療系雑誌		
		50冊未満	50冊未満	0	0	10種類未満	10種類以上
		貸し出し不可	貸し出し不可			貸し出し不可	制限なし
6	利用可能な機器	インターネット接続可能なパソコン		プリンター	コピー機		
		設置なし		設置なし	設置なし		
7	問い合わせ先電話番号 ※電話番号は半角英数で「-」を用いて記載 ※内線は、設置されている場合のみ記載	代表		(内線)			
		直通1		直通2			
8	対応職員の職種等・人数	(例)看護師	1	人	ボランティア	2	人
		ソーシャルワーカー	2	人			人
				人			人
9	ピアサポーターによる対応(実施/未実施)	実施					

OK

OK

診療実績等

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 国立研究開発法人国立成育医療研究センター

	年間新規症例数(※) (平成30年1月1日～12月31日)		年間新規症例数(※) (平成30年1月1日～12月31日)
造血器腫瘍合計	57	固形腫瘍合計	69
ALL	15	神経芽腫瘍群	6
AML	2	網膜芽腫	12
まれな白血病	1	腎腫瘍	1
MDS/MPDのうちCML	0	肝腫瘍	2
MDS/MPDのうちCMLを除く	4	骨腫瘍	3
Non-Hodgkin Lymphoma	7	軟部腫瘍	6
Hodgkin Lymphoma	0	胚細胞腫瘍	11
その他のリンパ増殖性疾患	3	脳・脊髄腫瘍	26
組織球症(HLH)	7	その他(診断名も記載すること)	基底細胞癌 1 副腎皮質癌 1
組織球症(LCH)	6		
その他の組織球症	7		
その他の造血器腫瘍	0		
Down症TAM 登録	5		

OK

※18歳以下の初回治療例とする。セカンドオピニオンは除く。

小児がんに関する研修プログラムの状況

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無 あり

病院名: 国立研究開発法人国立成育医療研究センター

時期・期間: 令和元年9月1日現在(研修会等の回数は平成30年1月1日～12月31日)

■ 研修会等の回数について記載すること

小児がんの診療、相談支援、がん登録及び臨床試験等に関する研修会等の回数(平成30年1月1日～12月31日)	10
うち小児がんの診療に関する研修会等の回数(平成30年1月1日～12月31日)	0
うち小児がんの相談支援に関する研修会等の回数(平成30年1月1日～12月31日)	0
うち小児がんのがん登録に関する研修会等の回数(平成30年1月1日～12月31日)	0
うち小児がんの臨床試験に関する研修会等の回数(平成30年1月1日～12月31日)	0
うち小児がんに関するその他の研修会等の回数(平成30年1月1日～12月31日)	10

OK

■ 研修プログラムについて記載すること

プログラムの総件数: 3

OK

プログラム名	期間 例 2年	対象者 例 医師卒後 〇年～〇年	H30 年度 (人)	R1 年度 (人)	H26年度以 降のプログ ラム修了者 (人)	H26年度以降プログラム修了者の 現在の勤務先					プログラムの特徴
						自施設 (人)	自施設以外				
							大学 病院 (人)	小児 病院 (人)	それ以外 の 総合病院 (人)	その他 (人)	
1 小児血液腫瘍フェロー研修	2-3年	小児科専門 医	9	8	13	0	3	1	1	8	フェローは主治医として、主として小児がんの入院診療を担当する。一部血液疾患も研修でき、上級フェローは外来診療も行う。多数の多職種カンファレンスでの症例提示、学会発表・論文投稿の機会も多い。
2 レジデント(小児科後期研修医)研修	6週間	医師卒後3 年	13	14	79						小児科後期研修2年目医師対象
3 東京医科大学後期研修医プログラム	3か月	医師卒後3 年	2	4	9	0	9	0	0	0	小児科後期研修2年目医師対象
4											
5											

相談支援センターの体制

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無 **あり**

病院名: **国立研究開発法人国立成育医療研究センター**

時期・期間: **令和元年9月1日現在**

相談支援センターの名称、体制、メンバーについて記載すること。個人情報を記載しないよう注意すること。

相談支援センターの名称		小児がんセンター相談支援センター						OK	
相談支援センターのメンバー									
職種	常勤／非常勤	専従／専任／兼任	相談業務の 経験年数(年)	相談員基礎研修会の受講状況			中央機関 による研修		
				基礎研修会 (1)	基礎研修会 (2)	基礎研修会 (3)			
1	看護師	常勤	専従(8割以上)	6	受講	受講	未受講		受講
2	社会福祉士	常勤	専従(8割以上)	16	受講	受講	受講		受講
3	社会福祉士	常勤	兼任(5割未満)	17	受講	受講	未受講		受講
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									

●年間の相談総件数(平成30年1月1日～12月31日) **369** 件

上記1件あたりの平均対応時間 平均 **14** 分 最短 **5** 分 最長 **100** 分 中央値 **10** 分

相談件数(令和元年6月1日～7月31日)

相談者	対面相談	電話相談	FAX相談	E-mail相談	計
1 自施設の患者・家族	51	11	0	0	62
2 他施設の患者・家族	0	0	0	0	0
合計	51	11	0	0	62

相談支援内容 ※相談支援センターで最も力を注いでいる相談支援の内容について下記に5つあげてください。国立がん研究センターのサイト「がん情報サービス」の相談支援センターの紹介欄で掲載する予定です。	相談支援の対象者	OK
例 がんの診療を行っている医療機関の紹介(70施設を対象に調査を行い、その資料をもとに医療機関の情報を提供しています。)	他施設の患者・家族	
1 医療費助成等の経済的支援の案内	自施設の患者・家族	
2 幼稚園や学校に関連する就学・復学支援	自施設の患者・家族	
3 自宅での療養に関する支援	自施設と他施設の患者・家族	
4 がんの子どもを持つ親やきょうだいへの家族支援	自施設の患者・家族	
5 受診・受療に関する案内や支援	自施設と他施設の患者・家族	

相談支援センターの状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 国立研究開発法人国立成育医療研究センター

時期・期間: 令和元年9月1日現在

相談支援センターの相談員など、相談支援センターの雰囲気が伝わる画像を貼付してください。
この画像は、国立がん研究センターのサイト「がん情報サービス」の相談支援センターの紹介欄に掲載いたします。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙18を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

ファイル形式

(ワード/一太郎/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

【必須】相談支援センターページの基本情報で掲載する画像を**「1枚」、上記の別添資料の有無に関わらず**提出してください。

※横長の写真の方が収まりがよいです。

※上記の別添資料と同じ画像でも構いませんが、写真ファイル名を**「別紙18相談支援センター画像」**として別に添付してください。

ファイル形式

JPEG

(PNG/JPEG/GIF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

○小児がんの患者さんと家族の方々やその関係者、また地域の方からのさまざまな相談に応じています。

○小児がんの発病直後から退院後、その先の長期的な支援まで対応しております。



相談支援センターの問い合わせ窓口

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 国立研究開発法人国立成育医療研究センター

時期・期間: 令和元年9月1日現在

1	相談支援センターの名称	小児がん相談支援センター					OK	
2	問い合わせ先電話番号	代表	03-3416-0181	(内線)	2148			
	※電話番号は半角英数で「-」を用いて記載 ※内線は、設置されている場合のみ記載	直通1						
		直通2						
		直通3						
3	対面相談の実施(実施/未実施)	実施					OK	
	予約の要否(必要/不要)	必要						
	電話相談の実施(実施/未実施)	実施					OK	
4	相談用の電話番号	代表	03-3416-0181	(内線)	2148			
	※電話番号は半角英数で記載 ※代表番号は、直通番号がない場合のみ記載	直通1		直通2				
	予約の要否(必要/不要)	不要						
5	FAX相談の実施(実施/未実施)	未実施					OK	
	相談用のFAX番号	直通1		直通2				
	※半角英数で記載 ※代表番号は、直通番号がない場合のみ記載	代表						
6	電子メール相談の実施(実施/未実施)	未実施					OK	
	相談用の電子メールアドレス	1						
	※半角英数で記載 ※個人のメールアドレスは記載しないでください	2						
7	相談員の職種・人数 ※選択肢に含まれていない職種の場合は、その他の欄に直接記載	(例) 精神保健福祉士 2 人		ソーシャルワーカー(上記以外) 1 人				
		社会福祉士	2	人		1	人	
		看護師	1	人			人	
				人			人	
				人	その他		人	
				人	その他		人	
8	ピアサポーターによる対応(実施/未実施)	実施					OK	
	具体的な活動内容	難病の子ども支援全国ネットワークより派遣されているピアサポーターです。対象は小児がんに限りません。病気や障害のある子どもを育てた経験のある保護者が、同じ問題に直面している方のご相談にのっています。						
9	地域の患者会の情報提供の有無	あり					OK	
	提供可能な患者会の数	6						

7 上記患者会の参加対象者の疾患名 ※特定の疾患の患者さんや家族を対象とした患者会が含まれている場合のみ記載 (例:乳がん、血液腫瘍、子どものがん、女性のがんなど)	小児がん、脳腫瘍、血液腫瘍、網膜芽細胞腫、神経芽腫、肝芽腫
------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------

小児がん患者団体との連携

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 国立研究開発法人国立成育医療研究センター

時期・期間: 平成30年1月1日～12月31日

団体総件数:

10

OK

小児がん患者団体との連携(患者の交流会、勉強会、相談支援、講演会等)があれば記載すること。

小児がん患者団体		具体的な連携の内容 (例: 月1回患者交流会を開催している。市民講演会に演者として参加してもらっている。)	
団体名	団体の参加対象者		
1	がんの子どもを守る会	患者、患者家族など	施設内情報コーナーに同団体のリーフレットを配置、ソーシャルワーカー間の相談支援における連携
2	あすなるクラブ	施設内患者、患者家族など	施設内情報コーナーに同団体のリーフレットを配置、月1回の交流会の開催のサポート(広報・会議室予約)
3	LCH患者会	ランゲルハンス細胞組織球症(LCH)患者、患者家族など	講演、患者相談への協力
4	小児脳幹グリオーマの会	小児脳幹グリオーマ、小児脳腫瘍患者、患者家族など	交流、ガイドブック監修、シンポジウムの実施
5	にじいろ電車	東京女子医大病院脳神経外科 家族の会	当センターでの交流会に参加
6	菜の花の会	東京都立小児総合医療センター 院内患者会	当センターでの交流会に参加
7	つぼみの会	獨協医科大学 地域共創看護教育センター	当センターでの交流会に参加
8	すくすく	網膜芽細胞腫の患者家族の会	当センターでの交流会に参加
9	肝芽腫の会	肝芽腫の患者家族の会	当センターでの交流会に参加
10	神経芽腫の会	神経芽腫の患者家族の会	当センターで交流会を開催(当センターは共催)

地域住民へのメッセージ

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 国立研究開発法人国立成育医療研究センター

※本別紙は、国立がん研究センターのサイト「がん情報サービス」のがん診療連携拠点病院のページに掲載することを目的としています。
※各項目200字以内で記載してください。

1	小児がん拠点病院としてのメッセージ
	<p>(例) 当院は、すべてのがん患者さんの治療方針の決定を外科、腫瘍内科、放射線治療等複数の領域の専門家による「カンサーボード」によって十分に検討し、最善の治療を行うよう努めております。</p> <p>小児がんセンターは、2013年9月に新しく組織され、わが国における小児がん診療のモデルとなるべく、全ての小児がん患者に対して世界標準かつ優しく温かい医療を提供するとともに、臨床研究の推進、新規治療の開発、長期フォローアップ体制の確立などを通じて、わが国の小児がん診療をリードすることを目標としています。診療組織には、血液腫瘍科、血液内科、腫瘍外科、脳神経腫瘍科、移植・細胞治療科、小児がん免疫診断科、がん緩和ケア科、小児がんデータ管理科、長期フォローアップ科があり、初発例から再発・難治例まで、他診療科と協力して、最善の治療を行うよう努力しております。</p>
2	相談支援センターからのメッセージ
	<p>(例) 医療ソーシャルワーカーが皆様のお話を伺い、一緒に考え、課題解決のお手伝いをさせていただきます。また、お話をお伺いし、専門の看護師やスタッフをご紹介させていただきます。</p> <p>小児がん相談支援センターでは小児がんの患者さんご家族の方々やその関係者、また地域の方からのさまざまなご相談に応じています。発病直後から長期的な支援をしていきますので、お気軽にご相談ください。この他、小児がん医療相談ホットラインを開設していますのでご利用ください。</p>
3	緩和ケアチームからのメッセージ
	<p>(例) 緩和ケアチームには、長年緩和医療に携わっている経験を積んだ医師、看護師、薬剤師が含まれ、身体的な痛みを始め、患者さんの精神的苦痛を和らげるため、担当医と連携し、最善の医療を提供します。</p> <p>こどもサポートチームでは、小児がんセンターで診療を行っている患者・家族および医療スタッフが多職種に相談しやすい環境を整え、入院初期から治療中の入院生活の工夫、終末期におけるケア、きょうだい支援、グリーフケア、医療費助成の案内、等々について多職種チームでカンファレンスを行い、主治医を中心とした診療をサポートしていきます。</p>
4	緩和ケア病棟からのメッセージ(※緩和ケア病棟が設置されている場合のみ記載してください。)
	<p>(例) 緩和ケア病棟は、別棟となっており、全室から中庭に出ることが可能で、豊かな自然を感じて、充実した時間を過ごすことができます。</p>

臨床研究を支援する専門の各部門のメンバー

記載の有無 あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 国立研究開発法人国立成育医療研究センター

時期・期間: 令和元年9月1日現在

各部門のメンバー(個人情報を記載しないよう注意すること)

メンバー総人数: 20

OK

各部門名		各部門のメンバーの専門性・職種
例	事務部門、データセンター部門、コーディネーター部門、治験管理室	薬事専門家、CRC、リサーチ・コンシェルジュ、生物統計家、事務担当
1	臨床研究センター	薬事専門家
2	臨床研究センター	CRC
3	臨床研究センター	生物統計家
4	臨床研究センター、小児がんデータ管理科	データマネージャー
5	臨床研究センター、小児がんデータ管理科	治験、臨床試験に精通した医師
6	小児がんデータ管理科	SE
7		
8		
9		
10		

臨床研究の問い合わせ窓口

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 国立研究開発法人国立成育医療研究センター

時期・期間: 令和元年9月1日現在

【臨床試験(治験を除く)】の問い合わせ窓口					
■臨床試験(治験を除く)に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口の有無について				担当している診療科が窓口となっている	OK
※臨床試験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。					
窓口の名称					
1	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し			
		アドレス	http://		
	電話	代表		(内線)	
		直通			
■臨床試験(治験を除く)に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について				担当している診療科が窓口となっている	OK
※臨床試験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。					
窓口の名称					
2	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し			
		アドレス	http://		
	電話	代表		(内線)	
		直通			

【臨床試験以外の小児がんに関連する臨床研究(特にトランスレーショナルリサーチ)】の問い合わせ窓口							
■臨床試験以外の小児がんに関する臨床研究に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口の有無について					担当している診療科が窓口となっている		OK
※臨床研究専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。							
1	窓口の名称						
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し					
		アドレス	http://				
	電話	代表		(内線)			
直通							
■臨床試験以外の小児がんに関する臨床研究に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について					担当している診療科が窓口となっている		OK
※臨床研究専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。							
2	窓口の名称						
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し					
		アドレス	http://				
	電話	代表		(内線)			
直通							
【治験】の問い合わせ窓口							
■治験に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口について					治験専用の窓口がある		OK
※治験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。							
1	窓口の名称		臨床研究センター				
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	臨床研究センター				
		アドレス	https://www.ncchd.go.jp/scholar/clinical/chiken/patient/recruit.html				
	電話	代表	03-5494-7120	(内線)	5371		
直通							
■治験に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について					治験専用の窓口がある		OK
※治験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。							
2	窓口の名称		臨床研究センター				
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	臨床研究センター				
		アドレス	https://www.ncchd.go.jp/scholar/clinical/chiken/patient/recruit.html				
	電話	代表	03-5494-7120	(内線)	5371		
直通							

教育支援、復園・復学支援の状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 国立研究開発法人国立成育医療研究センター

時期・期間： 令和元年9月1日現在

教育支援、復園・復学支援の状況について記載すること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙24を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

ファイル形式

(ワード/一太郎/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

- 東京都立光明特別支援学校の「そよ風分教室」では、小学部、中学部、高等部あわせて、年間のべ100名が在籍しています。
- 必要に応じて、ベッドサイドでの教育支援を行なっている。また、病院のタブレット端末を貸し出し、教育の場面でも活用しています。
- 小児がん患者については、復園・復学に際し、必要に応じて原籍校と分教室、医療関係者とでカンファレンスを開催し、復園・復学の支援を行っています。復学支援の標準要綱を作成し、早期からの復学支援に関して標準化を図っています。
- カンファレンスを開催する前に、ソーシャルワーカーが本人や家族と面談し、多職種と連携を取りながらカンファレンスに向けた準備もしています。
- 就学前の準備について、教育委員会等とも連携を取って準備を進めています。
- 高校生の教育にも分教室が対応していますが、入院時に現状を聞き取り、教育支援に関する情報提供を行っています。
- 月に一度、小児がんセンター医師、ソーシャルワーカー、保育士と分教室の教員で情報共有ミーティングを行っています。
- 必要に応じて、ケースカンファレンス等に分教室の教員の参加をお願いしています。

長期滞在施設またはこれに準じる施設

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 国立研究開発法人国立成育医療研究センター

時期・期間： 令和元年9月1日現在

病院からの距離、施設内の設備（調理スペース、ランドリー、プレイルーム等）、人の配置等について記載すること。必要に応じて写真を貼付することも可。**1枚におさめること。**

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙25を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

ファイル形式

(ワード/一太郎/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

施設名称 : ドナルド・マクドナルドハウスせたがや
 運営主体 : 公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン
 部屋数 : 23
 運営体制 : ハウスマネージャー1人、サブマネージャー1名、
 アシスタントマネージャー2人、ボランティア230人の計234人体制
 施設内設備: 宿泊室、キッチン、ダイニング、リビングルーム、多目的室(図書館)、ランドリー、コンピューター室、プレイルーム
 施設写真 :



施設名称 : ひつじさんのおうち
 運営主体 : 認定NPO法人 ファミリーハウス
 部屋数 : 4
 運営体制 : 看護師(相談員)、ソーシャルワーカー、ハウスマネージャ、ボランティア
 施設内設備: キッチン、リビング、バス、トイレ、ベッド
 施設写真 :



PDCAサイクルについて

記載の有無 **あり**

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: **国立研究開発法人国立成育医療研究センター**

時期・期間: **令和元年9月1日現在**

■自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制について、地域に対して行っている情報提供を記載してください。

- ①院内の見やすい場所に掲示している いいえ (はい/いいえ)
- ②院内誌、チラシ等で広報している いいえ (はい/いいえ)
- ③ホームページに掲載している いいえ (はい/いいえ)
- ④ホームページに掲載している場合、該当するページのアドレスを記載してください
- ⑤地域の広報誌等で広報している いいえ (はい/いいえ)
- ⑥その他の方法で掲載している いいえ (はい/いいえ)
- ⑦その他の方法がある場合、内容を記載してください

OK
OK
OK
OK
OK

■自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制について、必要に応じて図表などを活用し、具体的に記載すること。

PDCAを使って改善することを想定している課題(いくつでも可)

課題の内容	目標	目標達成の検証方法(データ源)
例) 患者満足度の向上	退院患者の80%が入院治療環境に満足する	3か月おきに日を設定して患者アンケートを行う。
1 復学カンファレンス実施率	100%の実施率を目指す	分子:分母のうち、院内学級への通学が終了した際に原籍校との復学カンファレンスを実施した患者数 分母:2017年に通算30日以上入院した学齢期(小・中学)患者のうち、入院治療終了となった患者実数 年に1回、QIとして測定する。
2 緩和ケアチーム介入率	30%の実施率を目指す	初発診断時年齢20歳未満かつ、院内がん登録2017年症例のうち、緩和ケアチームのカンファレンスで緩和ケアの必要性を検討した患者実数(カンファレンスで実際に検討した患者実数)の率を、年に1回QIとして測定する。
3 中心静脈カテーテル関連血流感染率	1.76%(拠点病院中央値)未満を目指す	ICUと協力して、年に1回QIとして測定する。 分子:小児がん患者における中心ライン関連血流感染者数(入院患者に限定) 分母:小児がん患者における中心ライン留置のべ日数(人日)
4 患者満足度の向上		独立行政法人国立病院機構と共同で調査結果を分析し、全国及び関東甲信越地域の国立病院機構病院との比較や前年度以前の自施設の結果との比較を行うなど、適切な評価の実施に努める。
5 ご意見箱		毎週1回のペースで患者からの要望やご意見に対するミーティングを行い、スピーディー且つ実効性のある改善に努めている。

上記の目標に向けた活動計画の予定(未定の場合には、未定と記入)

1
2
3
4
5

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙26を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無 なし (あり/なし)
 ファイル形式 (ワード/ー太郎/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)
 その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

医療安全体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 国立研究開発法人国立成育医療研究センター

時期・期間: 令和元年9月1日現在

●医療に係る安全管理を行う部門の名称、メンバーについて記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。

医療に係る安全管理を行う部門の名称		医療安全管理室				
医療に係る安全管理を行う部門のメンバー						
職種	常勤/非常勤	専従/専任/兼任	人数	うち、医療安全対策に係る研修を受講した者の人数		
1 医師	常勤	専従				
		専任	2	2		
		兼任				
	非常勤	専従				
		専任				
		兼任				
2 薬剤師	常勤	専従				
		専任	1	1		
		兼任				
	非常勤	専従				
		専任				
		兼任				
3 看護師	常勤	専従	1	1		
		専任				
		兼任				
	非常勤	専従				
		専任				
		兼任				
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						

OK

●医療安全のための患者窓口

窓口の名称		医療安全管理室			
電話	直通				
	代表	03-3416-0181	(内線)		

OK